平成25年度事業評価シート（地域振興特別予算）

事業名	53299	源流の森づくり事業	担当課	一之宮支所　基盤産業課	内線
	番枝				3431

予算			特別予算の位置付け		
会計	1	一般会計	○	A	合併前から実施されているイベント・行事
款	5	農林水産業費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
項	3	林業費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
目	2	林業振興費		D	その他事業

根拠計画	地域振興計画
市長公約 8	豊かな自然環境を守り、環境モデル都市をつくります ・森林等の自然環境を資源として守り活用するため、自治体・企業間交流等、都市部の自治体との連携等を実施します。

1　事業の目的・概要（Plan）

目的	誰を（対象）	イベント参加者	対象者数	40　人
目的	どういう状態にしたいのか（意図）	・林業の振興と森林のもつ多面的な機能を維持する。		
概要	事業の実施手法（手段）	・源流の森づくりイベントの開催など森と親しむ機会の充実を図る。 ・イベントを開催する飛騨一之宮源流の森ふれあい実行委員会に負担金を交付する。		

2　事業の推移・結果（Do）

成果面

H24の実績	・第21回源流の森づくりの開催（6月16日） ・飛騨一之宮源流の森ふれあい実行委員会による位山登山道整備奉仕活動（10月25日）

	指標名	単位	目標・実績	H23	H24	H25
活動指標	イベント回数	回	目標値	1	1	1
			実績値	1	1	－
	算出根拠等		達成率(%)	100	100	－
成果指標	イベント参加者数	人	目標値	60	50	40
			実績値	47	29	－
	算出根拠等		達成率(%)	78	58	－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－

補足事項

・源流の森づくり午前の部において、「いのちの森づくり第1章　森を知るプログラム」として森林教室・自然散策を実施した。

コスト面

事業費（人件費を除き繰越・補正を含む）			H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
歳出（千円）		（A）	800	700	600
財源内訳	受益者負担（使用料・負担金等）				
	その他特定財源（国・県支出金・起債等）				
	一般財源		800	700	600
コスト指標	受益者1件当たり（円）	（A／B）	17,021	24,138	15,000
	受益者　イベント参加者	（B）	47	29	40

3　分析・評価（Check）　※平成24年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明（評価の理由等）
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	B	・「いのちの森づくり」や「千代田区と高山市との森林整備実施に係る協定書」など森林に対する市民意識の高揚もあり、自然・森林体験などある程度ニーズがある。
		B (1)	ある程度のニーズがある		
		C (0)	ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	・高山市域の92%を占める森林資源を市が多面的に有効利用することは妥当である。
		B (1)	一部見直しが必要である		
		C (0)	市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	B	・イベント参加者は減少しているが、減少した理由としてはイベント直前まで大雨警報が発令され、当日雨天であったことによる。
		B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・事業コストは、必要最小限の経費で取り組んでおり、適正である。 ・イベント参加費は、参加者が手軽に参加できるよう配慮されており適正である。
		B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	B	・林業振興と森林のもつ多面的な機能を維持するため、源流の森づくりを開催することにより森と親しむ機会の充実が図られている。 ・富山市からの参加申込みがあり他地域との連携が図られつつある。
		B (1)	ある程度効果があった		
		C (0)	あまり効果が見られなかった		
合計		7 ／ 10	→	100点換算	70　点

分析・評価で明らかになった課題（「A」評価にするために何が必要なのかを記入）	・イベント参加者が目標値に到達するようイベント内容の充実や他事業と連携した取り組みが必要である。
（参考）H24事業評価結果（二次評価）	・地域主体の事業とすべく、特例期間終了を見据え、行政の関与を段階的に縮小する必要がある。

4　今後の方向性（Action）

課題等に対する今年度の対応状況	・「いのちの森づくり」との連携や「千代田区との交流活動に関する連携事業」としてイベントを実施する。

次年度の実施方針（担当課評価）	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	・他事業と連携することにより、イベント内容の充実や地域間交流を視野に入れたイベントを実施する。				

二次評価（企画課・総務課・財政課評価）	維持・改善	拡大	○ 縮小	廃止の検討	H25完了予定
	・地域主体の事業とすべく、特例期間終了を見据え、行政の支援を縮小する必要がある。				

平成25年度事業評価シート（地域振興特別予算）

事業名	62199	観光イベント開催事業	担当課	一之宮支所　基盤産業課	内線
	番枝				3431

予算			特別予算の位置付け		
会計	1	一般会計		○	A 合併前から実施されているイベント・行事
款	6	商工費			B 一般予算の上乗せとして実施されている事業
項	2	観光費			C 終期を定めて実施する事業・単年度事業
目	1	観光振興費			D その他事業

根拠計画	地域振興計画
市長公約 1	積極的な観光振興策を実施します ・合併後の周辺の自然環境や地域特有の伝統文化など多様な観光資源を新たな観光資源として積極的に活用します。

1　事業の目的・概要（Plan）

目的	誰を（対象）	イベント参加者	対象者数	50,000　人
目的	どういう状態にしたいのか（意図）	・人々のこころを魅了する通年型の観光地づくりを行う。		
概要	事業の実施手法（手段）	・四季を通じて楽しむことのできる魅力あるイベント（飛騨生きびな祭り、臥龍桜・桜まつり、飛騨一之宮・納涼夏祭り、モンデウス・スペシャルホリデー）を開催する。 ・イベントを開催する飛騨一之宮イベント推進実行委員会に負担金を交付する。		

2　事業の推移・結果（Do）

成果面

H24の実績	・飛騨生きびな祭りの開催（4月3日） ・臥龍桜・桜まつりの開催（4月14日～5月5日） ・飛騨一之宮・納涼夏祭りの開催（8月14日） ・モンデウス・スペシャルホリデーの開催（1月20日）

	指標名	単位	目標・実績	H23	H24	H25
活動指標	イベント回数	回	目標値	4	4	4
			実績値	4	4	－
	算出根拠等		達成率(%)	100	100	－
成果指標	イベント参加者数	人	目標値	50,000	50,000	50,000
			実績値	45,900	22,100	－
	算出根拠等		達成率(%)	92	44	－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－

補足事項

コスト面

事業費（人件費を除き繰越・補正を含む）	H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
歳出（千円）（A）	2,999	2,798	2,500
財源内訳　受益者負担（使用料・負担金等）			
財源内訳　その他特定財源（国・県支出金・起債等）			
財源内訳　一般財源	2,999	2,798	2,500
コスト指標　受益者1件当たり（円）（A／B）	65	127	50
コスト指標　受益者　イベント参加者（B）	45,900	22,100	50,000

3　分析・評価（Check）　※平成24年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明（評価の理由等）
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	・地域の特色あるイベントを開催しているため、市民及び観光客からのニーズが高い。
		B (1)	ある程度のニーズがある		
		C (0)	ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	・地域の特色あるイベントは地域振興や観光振興に有効であることから市が関与することは妥当である。
		B (1)	一部見直しが必要である		
		C (0)	市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	B	・当年度においては、臥龍桜の開花が遅く、開花期間も例年と比べ短期間であったため、桜まつり期間中のイベント参加者数が減少した要因となっている。
		B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・事業コストは、必要最小限の経費で取り組んでおり、適正である。 ・イベントに対する協力金は町内会や地域事業者などの負担によるもであるが、昨今の社会経済情勢ではこれ以上の負担増は見込めない。
		B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	・地域特有の自然資源や文化資源を積極的に活用したイベントを開催しており、観光振興や地域振興が図られている。
		B (1)	ある程度効果があった		
		C (0)	あまり効果が見られなかった		
合計		8 ／ 10	→	100点換算	80　点

分析・評価で明らかになった課題（「A」評価にするために何が必要なのかを記入）	・イベント参加者が目標値に到達するようイベント内容の充実や内容の見直しを実施する。
（参考）H24事業評価結果（二次評価）	・地域主体の事業とすべく、特例期間終了を見据え、負担金と行政の関与を段階的に縮小する必要がある。 ・各種効果について分析を行い、各イベントのあり方について検討する必要がある。

4　今後の方向性（Action）

課題等に対する今年度の対応状況	・事業コストの縮減を図りつつ、魅力あるイベントを開催するため、イベント内容の見直しを実施する。

次年度の実施方針（担当課評価）	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	・地域に根差したイベントを持続的に開催できるよう、イベント内容や運営方法などの見直しを実施する。				

二次評価（企画課・総務課・財政課評価）	維持・改善	拡大	○ 縮小	廃止の検討	H25完了予定
	・地域主体の事業とすべく、特例期間終了を見据え、行政の支援を縮小する必要がある。 ・各種効果について分析を行い、各イベントのあり方について検討する必要がある。				

平成25年度事業評価シート（地域振興特別予算）

事業名	94699	臥龍桜日本画大賞展開催事業	担当課	一之宮支所　地域振興課	内線
	番枝				3421

予算			位置付け（特別予算の）			
会計	1	一般会計		○	A	合併前から実施されているイベント・行事
款	9	教育費			B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
項	4	社会教育費			C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
目	6	文化振興費			D	その他事業

根拠計画	高山市地域振興計画
市長公約 9	伝統文化を守り、次代へ継承します ・心の中や生活に潤いと豊かさを醸し出し、生きがいや、若者の社会参加へのやる気づくりにもつながる芸術文化活動をさらに浸透させ、広げていくために、芸術文化の保存と継承、新たな芸術文化の創出のための予算を総予算枠の1%以上確保します。

1　事業の目的・概要（Plan）

目的	誰を（対象）	全市民	対象者数	92,097　人
	どういう状態にしたいのか（意図）	・文化芸術に対する関心の向上を図るとともに、人材の発掘、育成をめざす。（小中学生等） ・市民（小中学生、一般）が優れた芸術文化（絵画）に触れられる機会を創出する。 ・臥龍桜の名にちなんだ全国公募展覧会を開催し、国指定天然記念物「臥龍桜」を全国に発信する。		
概要	事業の実施手法（手段）	・「臥龍桜」の名を冠した全国規模の日本画公募展の開催 ・市内の小中学生を対象とした小中学生部門の開催 ・市内及び県美術館等での展覧会の開催		

2　事業の推移・結果（Do）

成果面		
	H24の実績	・第23回臥龍桜日本画大賞展を開催し、全国より公募の結果、382点の応募があり、大賞1点、優秀賞2点、奨励賞5点、桜賞1点、入選61点、計70点を選出した。 ・小中学生部門では、市内の全小中学校に募集の結果、19校から468点の応募があり、大賞1点、優秀賞6点、奨励賞9点、入選44点、計63点を選出した。 ・展覧会は、高山展が14日間で889人、岐阜展が6日間で2428人、述べ3317人の来場者があった。

	指標名	単位	目標・実績	H23	H24	H25
活動指標	全国公募による日本画展の応募作品数	点	目標値	400	400	400
			実績値	419	382	－
	算出根拠等		達成率(%)	105	96	－
活動指標	小中学生部門の応募者数	人	目標値	500	500	500
			実績値	479	468	－
	算出根拠等		達成率(%)	96	94	－
成果指標	展覧会の一日当たりの入場者数	人	目標値	100	100	100
			実績値	96	165	－
	算出根拠等		達成率(%)	96	165	－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－

補足事項

コスト面	事業費（人件費を除き繰越・補正を含む）	H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
	歳出（千円）（A）	8,349	8,694	9,400
財源内訳	受益者負担（使用料・負担金等）	4,324	2,077	1,900
	その他特定財源（国・県支出金・起債等）			
	一般財源	4,025	6,617	7,500
コスト指標	受益者1件当たり（円）（A／B）	89	94	102
	受益者　全市民（4月1日現在）（B）	93,312	92,861	92,097

3　分析・評価（Check）　※平成24年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明（評価の理由等）
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	B	・絵画（日本画）に興味を持ち、本展覧会を毎年楽しみにしている多くの市民がみえることから、ある程度のニーズがある。 ・小中学生部門では、毎年多数の応募があり、春には桜を描き、臥龍展に出品する事が定着してきており、児童・生徒のニーズは高い。
		B (1)	ある程度のニーズがある		
		C (0)	ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	B	・公募展として位置づけられ、継続されてきているので市が事業主体となっているが、今後の事業の在り方とともに運営の検討が必要である。
		B (1)	一部見直しが必要である		
		C (0)	市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	A	・日本画展の応募者や展覧会の入場者数も順調に推移しており、概ね達成している。 ・臥龍桜の知名度も全国的に広がり、見学者も毎年多く来場している。 ・日本を代表する日本画家の審査による全国規模の大賞展は、市民に高尚な芸術文化に触れる場を提供している。
		B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・事業の一部を業者委託で行っており、効率化・省力化を図っている。 ・絵画出品者からは出品料を徴収しており、展覧会では誰にも優れた芸術文化に触れる機会を提供する上で受益者のコストは適正である。 ・賞金額や審査員報酬、展覧会開催手法等の更なるコスト削減に向けた検討が必要である。
		B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	・20年以上継続している日本画大賞展は国内でも少なく、当大賞展入賞者が他の大賞展の上位入選をしており、過去の入賞者が、現在の日本画壇で活躍している。若手の登竜門としての人材発掘、育成の成果が上がっている。 ・小中学生部門においても、桜をテーマにした絵の募集で市内の小中学生が多数応募し、著名な日本画家の審査を受け、芸術文化の意識の高揚につながっている。
		B (1)	ある程度効果があった		
		C (0)	あまり効果が見られなかった		

合計	7 ／ 10	→	100点換算	70 点

分析・評価で明らかになった課題（「A」評価にするために何が必要なのかを記入）	・現在の事業実施の中でコスト縮減に取り組んでいるが、今後の開催内容、運営方法を検討し、更なるコスト削減に向けた検討が必要である。
（参考）H24事業評価結果（二次評価）	・市美術展覧会、木版画ビエンナーレ（隔年）を合わせた3つの公募展の関連や位置づけ、市民を巻き込んだ実施方法等について検討する必要がある。

4　今後の方向性（Action）

課題等に対する今年度の対応状況	・市民が芸術文化に触れる機会を提供するため、展覧会の更なる入場者数の増加をめざし、周知の方法を検討する。 ・小中学生部門では、若年層の芸術的素養の更なる発掘を目指すため、審査員を交代し、新たな観点による審査を行う。

次年度の実施方針（担当課評価）	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	・今後の実施方法・運営方法等について継続して検討する。 ・市民に芸術文化に触れる機会を提供するため、今後とも、この展覧会を広く周知する。				

二次評価（企画課・総務課・財政課評価）	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	・市美術展覧会、木版画ビエンナーレ(隔年)を合わせた3つの公募展の関連や位置づけ、市民を巻き込んだ実施方法等について検討する必要がある。				

平成25年度事業評価シート（地域振興特別予算）

事業名	94699	飛騨位山文化交流館美術展覧会事業	担当課	一之宮支所　地域振興課	内線
	番枝				3421

予算			特別予算の位置付け		
会計	1	一般会計	○	A	合併前から実施されているイベント・行事
款	9	教育費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
項	4	社会教育費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
目	6	文化振興費		D	その他事業

根拠計画	高山市地域振興計画
市長公約 9	伝統文化を守り、次代へ継承します ・心の中や生活に潤いと豊かさを醸し出し、生きがいや、若者の社会参加へのやる気づくりにもつながる芸術文化活動をさらに浸透させ、広げていくために、芸術文化の保存と継承、新たな芸術文化の創出のための予算を総予算枠の1%以上確保します。

1　事業の目的・概要（Plan）

目的	誰を（対象）	全市民	対象者数	92,097　人
	どういう状態にしたいのか（意図）	・幅広く、文化芸術に触れる機会を創出する。 ・市所蔵作品の有効活用を図る。 ・日本画展による市所蔵作品や審査員の作品を鑑賞する機会を利用し、臥龍桜日本画大賞展の知名度アップを図る。		
概要	事業の実施手法（手段）	・第1回からの大賞作品や歴代審査員による優れた日本画作品の展覧会を開催する。 ・「臥龍桜」の開花時期に併せて展覧会を開催する。		

2　事業の推移・結果（Do）

成果面

H24の実績	・第1回～第23回までの大賞作品（24点 連作2作品含む）と高山市所蔵の歴代審査員作品（5点）の計29点を展示した展覧会を開催し、4月13日から5月1日までの16日間に延べ483名の来場者があった。

	指標名	単位	目標・実績	H23	H24	H25
活動指標	展覧会の開催日数	日	目標値	17	17	17
			実績値	19	16	－
	算出根拠等：日数		達成率(%)	112	94	－
成果指標	開催期間中の入場者数	人	目標値	650	640	650
			実績値	557	483	－
	算出根拠等：実績値/目標値		達成率(%)	86	75	－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－

補足事項

コスト面

事業費（人件費を除き繰越・補正を含む）	H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
歳出（千円）（A）	194	151	330
財源内訳：受益者負担（使用料・負担金等）			
財源内訳：その他特定財源（国・県支出金・起債等）			
財源内訳：一般財源	194	151	330
コスト指標：受益者1件当たり（円）（A／B）	2	2	4
コスト指標：受益者　全市民（4月1日現在）（B）	93,312	92,861	92,097

3　分析・評価（Check）　※平成24年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明（評価の理由等）
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	B	・全国的にも有名な画家の作品や日本画展大賞作品等の優れた作品に触れる機会を期待している市民も多く、ある程度のニーズがある。
		B (1)	ある程度のニーズがある		
		C (0)	ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	・市所蔵の美術品の展覧会であることから、市が事業実施する必要性はある。
		B (1)	一部見直しが必要である		
		C (0)	市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	B	・臥龍桜の開花時期に合わせた開催で、相乗効果が出ている。
		B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・受付事務・会場設営については、日本画大賞展実行委員会メンバーのボランティアの協力でコスト縮減を図った。
		B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	・展覧会の開催により、日本画展に関係する所蔵作品や有名画家の作品に触れられ、市民の芸術文化への関心が高まる。
		B (1)	ある程度効果があった		
		C (0)	あまり効果が見られなかった		
合計		8 ／ 10	→	100点換算	80　点

分析・評価で明らかになった課題（「A」評価にするために何が必要なのかを記入）	・展覧会入場者数は臥龍桜の開花状況によって異なることから、開花から満開に合わせた展覧会の開催期間の設定が難しい。
（参考）H24事業評価結果（二次評価）	・市美術展覧会、木版画ビエンナーレ（隔年）を合わせた3つの公募展の関連や位置づけ、市民を巻き込んだ実施方法等について検討する必要がある。

4　今後の方向性（Action）

課題等に対する今年度の対応状況	・当事業は既に終了したが、今年の開花は例年に比べ1週間程度遅れたため、当初想定した開花時期と開催期間との整合がとれず開催前半の入場者数が少なかった。今後は開花予想を工夫し開催期間を設定する。

次年度の実施方針（担当課評価）	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	・国指定天然記念物『臥龍桜』の満開時期に開催し、来場者へのPR方法の充実に努める。 ・臥龍桜の開花時期に併せて楽しんでいただける新たな展覧会の企画に努める。				

二次評価（企画課・総務課・財政課評価）	維持・改善	拡大	○ 縮小	廃止の検討	H25完了予定
	・過去の入賞作品展示に特化した事業については、特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、縮小（廃止）を検討する必要がある。				

平成25年度事業評価シート（地域振興特別予算）

事業名	95199	地域スポーツ振興事業 （全日本選抜ローラースキーみや大会）	担当課	一之宮支所　地域振興課	内線
	番枝				3413

予算			位置付け（特別予算の）		
会計	1	一般会計	○	A	合併前から実施されているイベント・行事
款	9	教育費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
項	5	保健体育費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
目	1	体育総務費		D	その他事業

根拠計画	高山市地域振興計画
市長公約	

1　事業の目的・概要（Plan）

目的	誰を（対象）	市内のクロスカントリー選手、一之宮地域の住民	対象者数	92,097　人
	どういう状態にしたいのか（意図）	・県スキー連盟と地域が一体となって運営を行うことで、地域の若者たちの運営参加を促すとともに地域活力の向上を図る。 ・クロスカントリー選手のすそ野を広げるともに、夏期強化の大会として開催することにより選手の育成を図る。		
概要	事業の実施手法（手段）	・全日本選抜ローラースキーみや大会を実施する大会実行委員会への負担金を交付 ・インターネット等を活用した全国PRでの参加選手募集		

2　事業の推移・結果（Do）

成果面		
	H24の実績	・全国に参加選手を募集し、209名の選手の応募があり、地元ボランティアの運営で8月11日～12日に大会を実施した。

	指標名	単位	目標・実績	H23	H24	H25
活動指標	出場者数	人	目標値	180	180	180
			実績値	147	209	－
	算出根拠等		達成率(%)	82	116	－
成果指標	出場者数前年比率	%	目標値	100	100	100
			実績値	81	116	－
	算出根拠等　当年度参加者数/前年度参加者数		達成率(%)	81	116	－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－

補足事項

コスト面	事業費（人件費を除き繰越・補正を含む）	H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
	歳出（千円）（A）	800	750	700
財源内訳	受益者負担（使用料・負担金等）			
	その他特定財源（国・県支出金・起債等）			
	一般財源	800	750	700
コスト指標	受益者1件当たり（円）（A／B）	9	8	8
	受益者　市内クロス選手、一之宮住民（B）	93,312	92,861	92,097

3　分析・評価（Check）　※平成24年度の実績を評価

評価項目		評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明（評価の理由等）
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	B	・市内の小中学生が参加しており、ある程度のニーズがある。 ・全国から多数の参加選手があり、地元での宿泊、飲食、特産品の販売の向上につながっている。
			B (1)	ある程度のニーズがある		
			C (0)	ニーズが低い		
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	B	・全日本スキー連盟公認のローラースキー大会として20回を超える経歴のある競技会で、全国的に知名度が高いが、今後の運営方法の検討が必要である。
			B (1)	一部見直しが必要である		
			C (0)	市が実施する必要性が低い		
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	B	・大会の参加者も順調に推移しており、概ね成果は達成している。
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
			C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である		
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・大会スタッフは市民ボランティアで取り組んでいる。 ・大会運営費用の協賛金の応募に取り組んでいる。
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	B	・地域振興計画に位置付けられ、地域の一体感の醸成や地域活力の向上を図る観点から重要な事業である。
			B (1)	ある程度効果があった		
			C (0)	あまり効果が見られなかった		

合計	5 ／ 10	→	100点換算	50 点

分析・評価で明らかになった課題（「A」評価にするために何が必要なのかを記入）	・大会参加者の増加とボランティアの協力体制を推進するため、他の地域行事との調整が必要である。
（参考）H24事業評価結果（二次評価）	・地域の自主的な活動とすべく、負担金の段階的な引き下げを行う必要がある。 ・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、縮小（廃止）を検討する必要がある。

4　今後の方向性（Action）

課題等に対する今年度の対応状況	・実行委員会による自主運営方法と組織体制の確立

次年度の実施方針（担当課評価）		維持・改善		拡大	○	縮小		廃止の検討		H25完了予定
	・自主運営による事業の実施を検討しながら予算の縮小を図っていく。									

二次評価（企画課・総務課・財政課評価）		維持・改善		拡大	○	縮小		廃止の検討		H25完了予定
	・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、縮小（廃止）を検討する必要がある。									

平成25年度事業評価シート（地域振興特別予算）

事業名	95199	地域スポーツ振興事業（川上岳登山）	担当課	一之宮支所　地域振興課	内線
	番枝				3413

予算			特別予算の位置付け		
会計	1	一般会計	○	A	合併前から実施されているイベント・行事
款	9	教育費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
項	5	保健体育費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
目	1	体育総務費		D	その他事業

根拠計画	高山市地域振興計画
市長公約	

1　事業の目的・概要（Plan）

目的	誰を（対象）	全市民	対象者数	92,097　人
	どういう状態にしたいのか（意図）	・登山を通して、健康増進を図る。 ・宮川源流域の自然環境に対する保護意識の高揚を図るとともに、森林環境の重要性を認識してもらう。		
概要	事業の実施手法（手段）	・川上岳登山事業を実施する実行委員会へ負担金を交付		

2　事業の推移・結果（Do）

成果面

H24の実績	・市民に川上岳登山の応募を行い59名の参加応募があり、10月21日の当日は51名の参加、スタッフ12名で実施

	指標名	単位	目標・実績	H23	H24	H25
活動指標	参加者数	人	目標値	60	60	60
			実績値	0	59	－
	算出根拠等		達成率(%)	0	98	－
成果指標	参加者数前年比率	%	目標値	100	100	100
			実績値	0	98	－
	算出根拠等　当年度参加者数/前年度参加者数		達成率(%)	0	98	－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－

補足事項

コスト面

事業費（人件費を除き繰越・補正を含む）			H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
歳出（千円）		（A）	0	70	60
財源内訳	受益者負担（使用料・負担金等）				
	その他特定財源（国・県支出金・起債等）				
	一般財源		0	70	60
コスト指標	受益者1件当たり（円）	（A／B）	0	1	1
	受益者　全市民（4月1日現在）	（B）	93,312	92,861	92,097

3　分析・評価（Check）　※平成24年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明（評価の理由等）
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	・健康志向の高まりから、「登山」に対するニーズは年々高まっている。 ・毎年、定員を超える応募がある。
		B (1)	ある程度のニーズがある		
		C (0)	ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	B	・市民に気軽に登山の機会を提供し、登山によって健康づくりや源流域の自然環境への愛護精神の啓発のため、市の負担金は妥当であるが、今後の運営方法の検討が必要である。
		B (1)	一部見直しが必要である		
		C (0)	市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	A	・毎年、定員を超える応募があるので十分に達成している。
		B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・実行委員会の自主運営を目指して、市負担金の改善を行っている。 ・参加料の徴収により、市負担金の縮減に努めているので、受益者負担は適正である。
		B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	・地域振興計画に位置付けされており、市民の健康づくりや源流域の自然環境への愛護精神の醸成のための効果がある。
		B (1)	ある程度効果があった		
		C (0)	あまり効果が見られなかった		
合計		8 ／ 10	→	100点換算	80　点

分析・評価で明らかになった課題（「A」評価にするために何が必要なのかを記入）	・実行委員による自主事業としての取組体制を確立することが必要
（参考）H24事業評価結果（二次評価）	・地域の自主的な活動とすべく、負担金の段階的な引き下げを行う必要がある。 ・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、縮小（廃止）を検討する必要がある。

4　今後の方向性（Action）

課題等に対する今年度の対応状況	・実行委員による自主事業としての取組体制を確立

次年度の実施方針（担当課評価）		維持・改善		拡大	○	縮小		廃止の検討		H25完了予定
	・実行委員会の自主事業としての展開が必要である。									

二次評価（企画課・総務課・財政課評価）		維持・改善		拡大	○	縮小		廃止の検討		H25完了予定
	・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、縮小（廃止）を検討する必要がある。									

平成25年度事業評価シート（地域振興特別予算）

事業名	95199	地域スポーツ振興事業 （モンデウススキー大会開催事業）	担当課	一之宮支所　地域振興課	内線
	番枝				3413

予算			特別予算の位置付け		
会計	1	一般会計		○	A 合併前から実施されているイベント・行事
款	9	教育費			B 一般予算の上乗せとして実施されている事業
項	5	保健体育費			C 終期を定めて実施する事業・単年度事業
目	1	体育総務費			D その他事業

根拠計画	高山市地域振興計画
市長公約	

1　事業の目的・概要（Plan）

目的	誰を（対象）	市民（ジュニア：7歳～15歳、シニア：40歳～）	対象者数	92,097　人
目的	どういう状態にしたいのか（意図）	・市民（ジュニア、シニア）の体力維持、体力増進を図る。 ・モンデウススキー場への誘客促進を図る。		
概要	事業の実施手法（手段）	・モンデウススキー大会を実施する大会実行委員会へ負担金を交付 ・ジュニアスキー大会の開催 ・シニアスキー大会の開催		

2　事業の推移・結果（Do）

成果面	H24の実績	・モンデウススキー大会実行委員会によって、2月3日にジュニアスキー大会（参加者217名）、2月20日にシニアスキー大会（参加者102名）が開催された。

	指標名	単位	目標・実績	H23	H24	H25
活動指標	ジュニアスキー大会参加者数	人	目標値	300	300	300
			実績値	252	217	－
	算出根拠等：ジュニアスキー大会参加者数		達成率(%)	84	72	－
活動指標	シニアスキー大会参加者数	人	目標値	150	150	150
			実績値	95	102	－
	算出根拠等：当年度参加者数/前年度参加者数		達成率(%)	63	68	－
成果指標	シニアスキー大会参加者数前年度比率	%	目標値	100	100	100
			実績値	121	72	－
	算出根拠等：当年度参加者数/前年度参加者数		達成率(%)	121	72	－
成果指標	シニアスキー大会参加者数前年度比率	%	目標値	100	100	100
			実績値	93	68	－
	算出根拠等：当年度参加者数/前年度参加者数		達成率(%)	93	68	－
成果指標	モンデウススキー場年間利用者数	人	目標値	45,000	45,000	45,000
			実績値	45,072	43,136	－
	算出根拠等：実績値/目標値		達成率(%)	100	96	－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－

補足事項

コスト面	事業費（人件費を除き繰越・補正を含む）	H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
	歳出（千円）（A）	900	800	700
財源内訳	受益者負担（使用料・負担金等）			
財源内訳	その他特定財源（国・県支出金・起債等）			
財源内訳	一般財源	900	800	700
コスト指標	受益者1件当たり（円）（A／B）	10	9	8
コスト指標	受益者：市民（ジュニア、シニア）（B）	93,312	92,861	92,097

3　分析・評価（Check）　※平成24年度の実績を評価

	評価項目	評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明（評価の理由等）
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	B	・スキー人口減少の中においては、安定的な参加者があることから、ある程度のニーズがあると判断できる。
			B (1)	ある程度のニーズがある		
			C (0)	ニーズが低い		
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	B	・地域振興計画に位置付けされており、市民の健康づくりとモンデウススキー場への誘客促進に結び付くため市の負担金は妥当であるが、今後の組織体制等の検討が必要である。
			B (1)	一部見直しが必要である		
			C (0)	市が実施する必要性が低い		
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	B	・参加者は例年安定的にあるので、概ね達成されている。
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
			C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である		
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・実行委員会の自主運営に向けて、市に頼らない運営方法、改善を検討している。 ・スポンサーや協賛金を募り自主財源の確保に取り組んでいる。
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	B	・地域振興計画に位置付けされており、市民の生涯スポーツの推進とモンデウススキー場への誘客に結び付き、スポーツ交流促進の効果がある。
			B (1)	ある程度効果があった		
			C (0)	あまり効果が見られなかった		

合計	5 ／ 10	→	100点換算	50 点

分析・評価で明らかになった課題（「A」評価にするために何が必要なのかを記入）	・実行委員会による自主運営の方法と組織体制の確立 ・新たなスポンサーや協賛金の確保等で負担金の減額を図る。
（参考）H24事業評価結果（二次評価）	・地域の自主的な活動とすべく、負担金の段階的な引き下げを行う必要がある。 ・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、縮小（廃止）を検討する必要がある。

4　今後の方向性（Action）

課題等に対する今年度の対応状況	・実行委員会による自主運営の方法と組織体制の確立

次年度の実施方針（担当課評価）		維持・改善		拡大	○	縮小		廃止の検討		H25完了予定
	・地元密着の事業として、運営を地域主体で行っているが、今後の継続には自主財源の更なる確保が必要である。									

二次評価（企画課・総務課・財政課評価）		維持・改善		拡大	○	縮小		廃止の検討		H25完了予定
	・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、縮小（廃止）を検討する必要がある。									

平成25年度事業評価シート（地域振興特別予算）

事業名	21899	巨樹巨木保護管理事業	担当課	一之宮支所　基盤産業課	内線
	番枝				3431

予算			特別予算の位置付け			
会計	1	一般会計			A	合併前から実施されているイベント・行事
款	2	総務費		○	B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
項	1	総務管理費			C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
目	18	環境政策費			D	その他事業

根拠計画	地域振興計画
市長公約 1	積極的な観光振興策を実施します ・合併後の周辺の自然環境や地域特有の伝統文化など多様な観光資源を新たな観光資源として積極的に活用します。

1　事業の目的・概要（Plan）

目的	誰を（対象）	全市民	対象者数	92,097　人
目的	どういう状態にしたいのか（意図）	・恵まれた自然を守り、生かすという意識の高揚を図る。		
概要	事業の実施手法（手段）	・地域に残る巨樹・巨木の保護・保全活動を行う。		

2　事業の推移・結果（Do）

成果面

H24の実績	・防護柵の設置（政板のミズナラ） ・巨木周辺草刈、支障木の伐採（政板のミズナラ） ・土壌改良剤の散布（政板のミズナラ）

	指標名	単位	目標・実績	H23	H24	H25
活動指標	土壌改良剤の散布回数	回	目標値	1	1	1
			実績値	1	1	－
	算出根拠等		達成率(%)	100	100	－
活動指標	草刈りの回数	回	目標値	1	1	1
			実績値	1	1	－
	算出根拠等		達成率(%)	100	100	－
成果指標	位山登山者数	人	目標値	1,900	2,000	2,100
			実績値	2,270	2,260	－
	算出根拠等		達成率(%)	119	113	－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－

補足事項

コスト面

事業費（人件費を除き繰越・補正を含む）	H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
歳出（千円）（A）	269	289	370
財源内訳　受益者負担（使用料・負担金等）			
財源内訳　その他特定財源（国・県支出金・起債等）			
財源内訳　一般財源	269	289	370
コスト指標　受益者1件当たり（円）（A／B）	3	3	4
コスト指標　受益者　全市民（B）	93,312	92,861	92,097

3　分析・評価（Check）　※平成24年度の実績を評価

	評価項目	評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明（評価の理由等）
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	B	・位山・川上岳の登山者中心にある程度ニーズがある。
			B (1)	ある程度のニーズがある		
			C (0)	ニーズが低い		
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	・源流を象徴する巨樹・巨木を市が保護・保全することは、森と親しむ機会の創出や新たな観光スポットの創出を図るうえで妥当である。
			B (1)	一部見直しが必要である		
			C (0)	市が実施する必要性が低い		
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	B	・地域に残る巨樹・巨木の状況や周辺の状況に応じた保護・保全活動を適正に実施している。
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
			C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である		
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・事業コストは、必要最小限の経費で取り組んでおり、適正である。
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	B	・地域に残る巨樹・巨木を保護・保全することによって、環境保全への意識の高揚や新たな観光スポットの創出などある程度効果があった。
			B (1)	ある程度効果があった		
			C (0)	あまり効果が見られなかった		

合計	7 ／ 10	→	100点換算	70 点

分析・評価で明らかになった課題（「A」評価にするために何が必要なのかを記入）	・地域に残る巨樹・巨木を知ってもらい、足を運んでいただけるよう他事業のイベントなどと連携した取り組みが必要である。
（参考）H24事業評価結果（二次評価）	・観光資源としての活用の観点から、市内外への周知・PRについて検討する必要がある。

4　今後の方向性（Action）

課題等に対する今年度の対応状況	・源流の森づくりなどの体験メニューを活用し、巨樹・巨木のPRを積極的に行う。

次年度の実施方針（担当課評価）	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	・巨樹・巨木の保全・保護を適正に実施するとともに、周辺の環境整備も引き続き実施する。				

二次評価（企画課・総務課・財政課評価）	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	・市全体のバランスを考慮し、一般予算で実施しているものと整合を図りながら、今後の事業のあり方を検討する必要がある。				

平成25年度事業評価シート（地域振興特別予算）

事業名	21899	自然生態系保全事業	担当課	一之宮支所　基盤産業課	内線
	枝番				3431

予算			特別予算の位置付け			
会計	1	一般会計			A	合併前から実施されているイベント・行事
款	2	総務費		○	B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
項	1	総務管理費			C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
目	18	環境政策費			D	その他事業

根拠計画	地域振興計画
市長公約 1	積極的な観光振興策を実施します ・合併後の周辺の自然環境や地域特有の伝統文化など多様な観光資源を新たな観光資源として積極的に活用します。

1　事業の目的・概要（Plan）

目的	誰を（対象）	全市民	対象者数	92,097　人
目的	どういう状態にしたいのか（意図）	・恵まれた自然を守り、新たな観光スポットの創出による地域活性化を図る。		
概要	事業の実施手法（手段）	・桜やバイカモを守る活動を行う団体に対し補助金を交付する。		

2　事業の推移・結果（Do）

成果面	H24の実績	・桜のテング巣病除去、道路支障木・雪折れ枝の伐採 ・河川清掃、バイカモの移植

	指標名	単位	目標・実績	H23	H24	H25
活動指標	自然保護団体数	団体	目標値	2	2	2
			実績値	2	2	－
	算出根拠等		達成率(%)	100	100	－
活動指標	桜の保護・保全活動参加者数（延べ人数）	人	目標値	70	70	70
			実績値	54	44	－
	算出根拠等		達成率(%)	77	63	－
活動指標	バイカモの保護・保全活動参加者数（延べ人数）	人	目標値	56	56	56
			実績値	56	56	－
	算出根拠等		達成率(%)	100	100	－
成果指標	臥龍桜・桜まつり入場者数	人	目標値	40,000	40,000	40,000
			実績値	35,000	20,000	－
	算出根拠等		達成率(%)	88	50	－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－

補足事項

コスト面	事業費（人件費を除き繰越・補正を含む）	H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
	歳出（千円）（A）	110	110	130
財源内訳	受益者負担（使用料・負担金等）			
	その他特定財源（国・県支出金・起債等）			
	一般財源	110	110	130
コスト指標	受益者1件当たり（円）（A／B）	1	1	1
	受益者　全市民（B）	93,312	92,861	92,097

3　分析・評価（Check）　※平成24年度の実績を評価

	評価項目	評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明（評価の理由等）
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	B	・宮川や常泉川沿線の桜並木道やバイカモについては、市内外に広く認知されつつあることから、ある程度ニーズがある。
			B (1)	ある程度のニーズがある		
			C (0)	ニーズが低い		
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	・地域を象徴する桜・バイカモの保護・保存活動に対して市が支援することは、新たな観光スポットや景観の創出になることから妥当である。
			B (1)	一部見直しが必要である		
			C (0)	市が実施する必要性が低い		
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	B	・桜の保護・保存については適正に維持管理されている。 ・バイカモについては、昨年度個体数が減少していたが回復されつつある。
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
			C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である		
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・事業コストは、必要最小限の経費で取り組んでおり、適正である。
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	B	・地域を象徴する桜や市文化財でもあるバイカモを保護・保存することは貴重な自然資源を後世に残すだけでなく、観光資源として地域振興に寄与できる。
			B (1)	ある程度効果があった		
			C (0)	あまり効果が見られなかった		
合計			7 ／ 10	→	100点換算	70　点

分析・評価で明らかになった課題（「A」評価にするために何が必要なのかを記入）	・桜並木道やバイカモは地域にとって貴重な資源であるという意識づけができるような取り組みが必要である。
（参考）H24事業評価結果（二次評価）	・自然環境の保護・保存に取り組む市民団体等に対する支援のあり方について整理する必要がある。

4　今後の方向性（Action）

課題等に対する今年度の対応状況	・桜の並木道を活用した地域イベントのPRやバイカモの開花情報の発信をする。

次年度の実施方針（担当課評価）	○	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H25完了予定
	・自然保護団体の活動が持続的に実施できるよう地域ぐるみの取り組みについて検討する必要がある。									
二次評価（企画課・総務課・財政課評価）	○	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H25完了予定
	・市全体のバランスを考慮し、一般予算で実施しているものと整合を図りながら、今後の支援のあり方を検討する必要がある。									

平成25年度事業評価シート（地域振興特別予算）

事業名	31399	地域老人福祉推進事業費（老人クラブ活動費助成事業）	担当課	一之宮支所　地域振興課	内線
	番枝				3413

予算			特別予算の位置付け			
会計	1	一般会計			A	合併前から実施されているイベント・行事
款	3	民生費		○	B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
項	1	社会福祉費			C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
目	3	老人福祉費			D	その他事業

根拠計画		
市長公約	5	医療・福祉を充実させます 地域住民が互いに支えあう仕組みや、緊急時の支援を万全にするため、独居老人、要援護者等への地域福祉体制を整備します。

1　事業の目的・概要（Plan）

目的	誰を（対象）	60歳以上の市民で構成される単位老人クラブ及び連合組織	対象者数	9,677　人
目的	どういう状態にしたいのか（意図）	・明るい長寿社会と豊かな老後を目指す。		
概要	事業の実施手法（手段）	・高齢者の生きがいと健康づくり、また高齢社会を支える上で大きな役割を担っている老人クラブに対し、福祉の向上のために事務局人件費を助成し、老人クラブを通じて、各種活動の育成、支援を行う。		

2　事業の推移・結果（Do）

成果面

H24の実績	・市連合長寿会に対して、事務局人件費を助成

	指標名	単位	目標・実績	H23	H24	H25
活動指標	連合長寿会会員数	人	目標値	10,500	10,000	10,000
			実績値	9,796	9,584	－
	算出根拠等　目標値/実績値		達成率(%)	93	96	－
活動指標	連合長寿会単位老人クラブ数	クラブ	目標値	150	143	139
			実績値	143	139	－
	算出根拠等　目標値/実績値		達成率(%)	95	97	－
活動指標	連合長寿会加入率	%	目標値	43	40	40
			実績値	39	38	－
	算出根拠等　連合長寿会加入者数/65歳以上人口		達成率(%)	91	95	－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－

補足事項

コスト面

事業費（人件費を除き繰越・補正を含む）			H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
歳出（千円）		（A）	420	420	420
財源内訳	受益者負担（使用料・負担金等）				
	その他特定財源（国・県支出金・起債等）		162	150	280
	一般財源		258	270	140
コスト指標	受益者1件当たり（円）	（A／B）	753	755	727
	受益者　一之宮区会員数(4月1日現在)	（B）	558	556	578

3　分析・評価（Check）　※平成24年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明（評価の理由等）
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	B	・高齢者が住み慣れた地域で、他の高齢者や住民と交流を持ちながら健康で日常生活を送るための活動として、市民の感心は高く、地域活動にも根付いている。
		B (1)	ある程度のニーズがある		
		C (0)	ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	・市は、老人福祉法（第十条の三第一項）の規定により、老人クラブなどの老人福祉を増進する目的とする事業を行う者の活動の連携及び調整、地域の実情に応じた体制整備に努めなければならないため。
		B (1)	一部見直しが必要である		
		C (0)	市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	B	・老人クラブ加入者は、減少傾向であるため、役員等により、組織や活動の見直しに取り組んでいる。
		B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・補助金の額は、会員数及び単位老人クラブ数により、算出するため。
		B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	・長寿会活動に参加することにより、高齢者の健康増進と閉じこもり予防が図れた。
		B (1)	ある程度効果があった		
		C (0)	あまり効果が見られなかった		

合計	8 ／ 10	→	100点換算	80 点

分析・評価で明らかになった課題（「A」評価にするために何が必要なのかを記入）	・新規加入者が少なく、連合長寿会会員の減・単位クラブの減が課題となっている。健康で生きがいを持って生活するために、地域とのつながりも深めながら、今後一層の充実と活発な取り組みが必要である。

（参考）H24事業評価結果（二次評価）	・市域全体としては、会員数・クラブ数は減少傾向にあり、事業効果が高齢者全体に及んでいないようになってきていることから、老人クラブ活動費補助金との一本化については、今後の支援のあり方も含めて検討する必要がある。

4　今後の方向性（Action）

課題等に対する今年度の対応状況	・本補助金を有効に活用するため、老人クラブにおける活動内容の見直しを進めながら事業継続し、組織の育成と活動の支援を行う。

次年度の実施方針（担当課評価）	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	・老人クラブ活動費補助金（31336事業）との一本化を図る。				

二次評価（企画課・総務課・財政課評価）	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	・市域全体としては、会員数・クラブ数は減少傾向にあり、事業効果が高齢者全体に及んでいないようになってきていることから、老人クラブ活動費補助金との一本化については、今後の支援のあり方も含めて検討する必要がある。				

平成25年度事業評価シート（地域振興特別予算）

事業名	61199	位山交流促進センター管理事業	担当課	一之宮支所　基盤産業課	内線
	番枝				3431

予算				特別予算の位置付け		
会計	1	一般会計			A	合併前から実施されているイベント・行事
款	6	商工費		○	B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
項	1	商工費			C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
目	1	商工振興費			D	その他事業

根拠計画	地域振興計画
市長公約 2	商工業・地場産業をさらに発展させます ・将来の地域経済を支える持続的な振興を図るため、高速交通網や広大な市域の特性を活かした新しい産業育成に取り組み、新規常雇用者の増加を目指します。

1　事業の目的・概要（Plan）

目的				
誰を（対象）	施設利用者	対象者数	63,000　人
どういう状態にしたいのか（意図）	・地域の特色を活かした魅力ある商業の振興を図る。		
概要 事業の実施手法（手段）	・道の駅がもつ販売機能の強化と活用を行う。 ・施設の管理は、財団法人　位山ふれあいの里に委託する。		

2　事業の推移・結果（Do）

成果面

H24の実績	・道の駅の附帯施設として位山交流促進センターの管理運営を実施する。

	指標名	単位	目標・実績	H23	H24	H25
活動指標	施設営業日数	日	目標値	325	325	325
			実績値	325	325	－
	算出根拠等		達成率(%)	100	100	－
成果指標	施設利用者数	人	目標値	63,000	63,000	63,000
			実績値	61,346	60,119	－
	算出根拠等		達成率(%)	97	95	－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－

補足事項

コスト面

事業費（人件費を除き繰越・補正を含む）			H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
歳出（千円）		（A）	8,000	8,000	8,000
財源内訳	受益者負担（使用料・負担金等）				
	その他特定財源（国・県支出金・起債等）				
	一般財源		8,000	8,000	8,000
コスト指標	受益者1件当たり（円）	（A／B）	130	133	127
	受益者　施設利用者数	（B）	61,346	60,119	63,000

3　分析・評価（Check）　※平成24年度の実績を評価

	評価項目	評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明（評価の理由等）
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	B	・冬季にはニーズが高く、それ以外は低くなっているが全体としてある程度ニーズがある。
			B (1)	ある程度のニーズがある		
			C (0)	ニーズが低い		
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	・道の駅の附帯施設として市が適正に管理する必要がある。
			B (1)	一部見直しが必要である		
			C (0)	市が実施する必要性が低い		
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	B	・施設利用者は減少しているものの、目標達成率が高いことから目的とする成果がある程度あがっている。
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
			C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である		
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・事業コスト縮減のため、節電やLED電球への交換などある程度対策を実施している。
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	B	・グリーンツーリズムや源流の森づくりなどのイベント時には積極的に当該施設を利用しているものの、収支は赤字のため経営改善の検討が必要である。
			B (1)	ある程度効果があった		
			C (0)	あまり効果が見られなかった		

合計	6 ／ 10	→	100点換算	60 点

分析・評価で明らかになった課題（「A」評価にするために何が必要なのかを記入）	・年間を通して集客できるような環境整備や経営改善に向けた分析を行う必要がある。
（参考）H24事業評価結果（二次評価）	・老朽化や採算面から厳しさが増しており、他のスキー場とも関連した今後のあり方などについて検討する必要がある。

4　今後の方向性（Action）

課題等に対する今年度の対応状況	・更なる集客を目指し、隣接する合併記念公園のPRや経営改善に向けた分析を行う。

次年度の実施方針（担当課評価）	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	・道の駅の附帯施設として適正に運営するとともに経営改善に向けた取り組みを実施する。				

二次評価（企画課・総務課・財政課評価）	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	（担当課評価に同じ）				

平成25年度事業評価シート（地域振興特別予算）

事業名	72199	市道未登記用地測量事業	担当課	一之宮支所　基盤産業課	内線
	番枝				3431

予算			特別予算の位置付け			
会計	1	一般会計			A	合併前から実施されているイベント・行事
款	7	土木費		○	B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
項	2	道路橋りょう費			C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
目	1	道路橋りょう総務費			D	その他事業

根拠計画	地域振興計画
市長公約 4	個人・家庭・地域を大切にする社会を築きます ・日常生活における買い物、通勤、通学、通院などの移動手段を確保するため、市民の生活を守る公共交通網を整備します。

1　事業の目的・概要（Plan）

目的	誰を（対象）	全市民	対象者数	92,097　人
目的	どういう状態にしたいのか（意図）	・未登記路線を整理し、市道の適正な管理を行う。		
概要	事業の実施手法（手段）	・市道未登記箇所の測量を行い、所有者からの寄付により道路用地として高山市へ所有権移転登記を行う。		

2　事業の推移・結果（Do）

成果面

H24の実績	・未登記路線の確定測量及び分筆測量

	指標名	単位	目標・実績	H23	H24	H25
活動指標	未登記路線測量等調査筆数	筆	目標値	2	1	1
			実績値	2	1	－
	算出根拠等		達成率(%)	100	100	－
成果指標	未登記完了筆数（延べ数）	筆	目標値	69	69	69
			実績値	46	47	－
	算出根拠等		達成率(%)	67	68	－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－

補足事項

コスト面

事業費（人件費を除き繰越・補正を含む）			H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
歳出（千円）		（A）	498	415	500
財源内訳	受益者負担（使用料・負担金等）				
	その他特定財源（国・県支出金・起債等）				
	一般財源		498	415	500
コスト指標	受益者1件当たり（円）	（A／B）	5	4	5
	受益者　全市民	（B）	93,312	92,861	92,097

3　分析・評価（Check）　※平成24年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明（評価の理由等）
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	・未登記路線を整理することによって、市道の適正な管理が行えることからニーズは高い。
		B (1)	ある程度のニーズがある		
		C (0)	ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	・市が管理すべき施設のため、事業主体を見直す余地はない。
		B (1)	一部見直しが必要である		
		C (0)	市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	B	・処理困難な路線が残っている中、地権者の理解により寄付登記が進行したことから、目的とする成果がある程度あがっている。
		B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・事業コストは、必要最小限の経費で取り組んでおり適正である。
		B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	・生活に身近な市道を適正に管理するためには、未登記路線の解消については積極的に取り組むべき事業である。
		B (1)	ある程度効果があった		
		C (0)	あまり効果が見られなかった		
合計		9 ／ 10	→	100点換算	90　点

分析・評価で明らかになった課題（「A」評価にするために何が必要なのかを記入）	・未登記路線が早期に解消できるよう、引き続き積極的に取り組んでいく必要がある。
（参考）H24事業評価結果（二次評価）	・平成26年度までに重要路線の未登記処理を完了できるよう積極的に取り組んでいく必要がある。

4　今後の方向性（Action）

課題等に対する今年度の対応状況	・未登記路線が早期に解消できるよう、引き続き積極的に取り組んでいく。

次年度の実施方針（担当課評価）	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	・未登記路線が早期に解消できるよう、引き続き積極的に取り組んでいく。				

二次評価（企画課・総務課・財政課評価）	維持・改善	○ 拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	・平成26年度までに重要路線の未登記処理を完了できるよう積極的に取り組んでいく必要がある。				

平成25年度事業評価シート（地域振興特別予算）

事業名	74599	地域景観保全振興事業（桜の里づくり）	担当課	一之宮支所　基盤産業課	内線 3431
	番枝				

予算			特別予算の位置付け		
会計	1	一般会計		A	合併前から実施されているイベント・行事
款	7	土木費	○	B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
項	4	都市計画費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
目	5	景観保全総務費		D	その他事業

根拠計画	地域振興計画
市長公約 1	積極的な観光振興策を実施します ・合併後の周辺の自然環境や地域特有の伝統文化など多様な観光資源を新たな観光資源として積極的に活用します。

1　事業の目的・概要（Plan）

目的	誰を（対象）	全市民	対象者数	92,097　人
目的	どういう状態にしたいのか（意図）	・桜を基調とする地域個性の創出として桜の舞う地域づくりを行う。		
概要	事業の実施手法（手段）	・桜を適正に管理するために補植、防除及び施肥を実施する。		

2　事業の推移・結果（Do）

成果面

H24の実績	・桜の防除・施肥の実施 ・しだれ桜の整姿作業の実施

	指標名	単位	目標・実績	H23	H24	H25
活動指標	桜の維持管理本数	本	目標値	1,000	1,000	1,000
			実績値	1,000	1,000	－
	算出根拠等		達成率(%)	100	100	－
成果指標	臥龍桜・桜まつり入場者数	人	目標値	40,000	40,000	40,000
			実績値	35,000	20,000	－
	算出根拠等		達成率(%)	88	50	－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－

補足事項

コスト面

事業費（人件費を除き繰越・補正を含む）			H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
歳出（千円）		（A）	1,089	2,333	8,300
財源内訳	受益者負担（使用料・負担金等）				
	その他特定財源（国・県支出金・起債等）				
	一般財源		1,089	2,333	8,300
コスト指標	受益者1件当たり（円）	（A／B）	12	25	90
	受益者　全市民	（B）	93,312	92,861	92,097

3　分析・評価（Check）　※平成24年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明（評価の理由等）
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	・臥龍桜を中心に桜が舞う美しい農村風景を楽しむ観光客などが訪れていることからニーズが高い。
		B (1)	ある程度のニーズがある		
		C (0)	ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	B	・桜の日常的な管理については、市が防除・施肥を実施し、一之宮桜を守る会においてはテングス病の除去など主に枝打ちを実施していることからより効果的・効率的な管理ができるよう一部見直しを検討する必要がある。
		B (1)	一部見直しが必要である		
		C (0)	市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	B	・桜の防除については薬剤散布に加え、試験的に樹幹注入剤を利用した結果、防除効果が確認された。 ・常泉川沿線のしだれ桜の整姿作業を実施したことにより、良好な景観を回復できた。
		B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・事業コストは、必要最小限の経費で取り組んでおり適正である。 ・しだれ桜の整姿作業は計画的に実施している。
		B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	B	・桜の里づくりによる景観保全・地域振興並びに観光振興を図ることがある程度できた。
		B (1)	ある程度効果があった		
		C (0)	あまり効果が見られなかった		
合計		7 ／ 10	→	100点換算	70　点

分析・評価で明らかになった課題（「A」評価にするために何が必要なのかを記入）	・桜の防除については引き続き、樹幹注入剤の効果を検証する必要がある。 ・一之宮桜を守る会と連携しながら桜を適正に管理する必要がある。
（参考）H24事業評価結果（二次評価）	・類似事業との整理とともに、他の地域とのバランスを考慮し、今後の適正な管理手法を検討する必要がある。

4　今後の方向性（Action）

課題等に対する今年度の対応状況	・桜の防除については引き続き、樹幹注入剤の効果を検証する。 ・一之宮桜を守る会と連携しながら桜を適正に管理する。

次年度の実施方針（担当課評価）	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	・引き続き、一之宮桜を守る会と連携しながら桜を適正に管理する。 ・良好な景観を守るために、しだれ桜の整姿作業を計画的に実施する。				

二次評価（企画課・総務課・財政課評価）	維持・改善	拡大	○ 縮小	廃止の検討	H25完了予定
	・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、縮小（廃止）を検討する必要がある。				

平成25年度事業評価シート（地域振興特別予算）

事業名	94199	花いっぱい運動事業	担当課	一之宮支所　地域振興課	内線
	番枝				3413

予算			特別予算の位置付け			
会計	1	一般会計			A	合併前から実施されているイベント・行事
款	9	教育費		○	B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
項	4	社会教育費			C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
目	1	社会教育総務費			D	その他事業

根拠計画	地域振興計画
市長公約 4	個人・家庭・地域を大切にする社会を築きます ・市民が幸せな家庭生活を送り、安心して暮らせる地域を築くため、地域の自主的なコミュニティ活動や環境整備事業の予算枠を確保します。

1　事業の目的・概要（Plan）

目的	誰を（対象）	一之宮地域の住民	対象者数	2,623　人
目的	どういう状態にしたいのか（意図）	・地域住民が花壇づくりに参加することで、地域コミュニティの醸成を図る。 ・花づくりを通して、美しい地域づくりに住民みんなで取り組み、地域の絆を強めるとともに豊かな心を育成する。		
概要	事業の実施手法（手段）	・一之宮地区町内会等へ花苗・肥料等の配付を行う。 ・花壇づくり講習会及び花壇コンクールを一之宮社教と共催で開催する。		

2　事業の推移・結果（Do）

成果面

H24の実績	・一之宮地区の町内会（社教・子ども会）等の行う花いっぱい運動のため花苗・肥料等を配付 ・花壇づくり講習会を開催（社教と共催） ・花壇コンクールは社教が主催で実施（社教に属さない4団体不参加）。審査員1名分の謝礼を市で支出

	指標名	単位	目標・実績	H23	H24	H25
活動指標	花苗配付数	株	目標値	13,000	13,000	15,000
			実績値	12,880	12,900	－
	算出根拠等		達成率(%)	99	99	－
成果指標	花壇箇所数	箇所	目標値	37	37	37
			実績値	37	37	－
	算出根拠等		達成率(%)	100	100	－
成果指標	花壇コンクール応募数	団体	目標値	33	33	33
			実績値	33	33	－
	算出根拠等		達成率(%)	100	100	－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－

補足事項

コスト面

事業費（人件費を除き繰越・補正を含む）			H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
歳出（千円）		（A）	383	417	470
財源内訳	受益者負担（使用料・負担金等）				
	その他特定財源（国・県支出金・起債等）				
	一般財源		383	417	470
コスト指標	受益者1件当たり（円）	（A／B）	145	159	179
	受益者　一之宮地域住民(4月1日現在)	（B）	2,633	2,625	2,623

3　分析・評価（Check）　※平成24年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明（評価の理由等）
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	・花いっぱい運動事業は、市民活動の一環として地域に定着しており、町内会や子ども会のニーズは高い。
		B (1)	ある程度のニーズがある		
		C (0)	ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	B	・花いっぱい運動事業は、市長公約された「地域の自主的なコミュニティ活動や環境整備事業の予算枠確保」にあたり、市民憲章推進にもつながる事業であり、また高山市全域で行われている事業である。
		B (1)	一部見直しが必要である		
		C (0)	市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	A	・地域の班社教および子ども会など小規模単位のコミュニティの活発化になっている。
		B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・22年度実施時、20種類あった花品種・色を23年度から10種類にしぼった。また、花苗納品業者は障害者支援施設吉城山ゆり園であり、障害者福祉にも役立っており、民間業者より安価である。
		B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	・地域振興計画に位置付けられ、市長公約にもある「地域の自主的なコミュニティ活動や環境整備事業」の面で効果があった。
		B (1)	ある程度効果があった		
		C (0)	あまり効果が見られなかった		

合計	9 ／ 10	→	100点換算	90 点

分析・評価で明らかになった課題（「A」評価にするために何が必要なのかを記入）	・地域振興特別予算終了後の支所地域の花いっぱい運動がアンバランスにならないよう、新たな予算の枠組みなど検討が必要

（参考）H24事業評価結果（二次評価）	・「花いっぱい運動」に対しては、当該地域振興予算のほか、一般予算による補助金（市民憲章推進事業補助金、特色ある地区活動事業補助金等）が直接・間接に助成されており、地域振興特別予算の終期も踏まえた助成のあり方を再検討するとともに、事業費規模などについても検討する必要がある。

4　今後の方向性（Action）

課題等に対する今年度の対応状況	・事業存続に向け、地域振興特別予算終了後も一般予算化を検討する。

次年度の実施方針（担当課評価）	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	・花いっぱい運動推進のため、継続していく。 ・各支所地域とのバランスの考慮も必要だが、肥料等一部予算縮小の検討可能				

二次評価（企画課・総務課・財政課評価）	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	・「花いっぱい運動」については、一般予算による補助金(市民憲章推進事業補助金、特色ある地区活動事業補助金等)との整理が必要である。 ・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、助成のあり方・事業費規模などについて検討する必要がある。				

平成25年度事業評価シート（地域振興特別予算）

事業名	94699	地域文化振興事業	担当課	一之宮支所　地域振興課	内線
	番枝				3421

予算			位置付け（特別予算の）			
会計	1	一般会計			A	合併前から実施されているイベント・行事
款	9	教育費		○	B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
項	4	社会教育費			C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
目	6	文化振興費			D	その他事業

根拠計画	高山市地域振興計画
市長公約 9	伝統文化を守り、次代へ継承します ・心の中や生活に潤いと豊かさを醸し出し、生きがいや、若者の社会参加へのやる気づくりにもつながる芸術文化活動をさらに浸透させ、広げていくために、芸術文化の保存と継承、新たな芸術文化の創出のための予算を総予算枠の1%以上確保します。

1　事業の目的・概要（Plan）

目的	誰を（対象）	一之宮地域の住民	対象者数	2,623　人
	どういう状態にしたいのか（意図）	・優れた文化に触れる機会を提供する。 ・一之宮地域の住民の文化教養の向上を図る。		
概要	事業の実施手法（手段）	・地域文化振興事業への助成 ・著名人を講師として招へいし、講演会等を開催する。		

2　事業の推移・結果（Do）

成果面

H24の実績	一之宮町社会教育推進運営委員会が11月24日にプロ野球選手工藤公康氏を招いて講演会を行った。（参加者391人）

	指標名	単位	目標・実績	H23	H24	H25
活動指標	講演会開催回数	回	目標値	1	1	1
			実績値	1	1	－
	算出根拠等		達成率(%)	100	100	－
成果指標	講演会入場者数	人	目標値	300	300	350
			実績値	220	391	－
	算出根拠等		達成率(%)	73	130	－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－

補足事項

コスト面

事業費（人件費を除き繰越・補正を含む）	H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
歳出（千円）（A）	1,000	800	800
財源内訳：受益者負担（使用料・負担金等）			
財源内訳：その他特定財源（国・県支出金・起債等）			
財源内訳：一般財源	1,000	800	800
コスト指標：受益者1件当たり（円）（A／B）	380	305	305
コスト指標：受益者　一之宮地域住民(4月1日現在)（B）	2,633	2,625	2,623

3　分析・評価（Check）　※平成24年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明（評価の理由等）
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	B	・全国的に知名度の高い著名人を講演者として招待していることで、会場には多数の来場者もあり、地域住民の文化向上に資する。
		B (1)	ある程度のニーズがある		
		C (0)	ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	B	・市が助成することで、市民の生きがいや社会参加への意識向上につながる。
		B (1)	一部見直しが必要である		
		C (0)	市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	B	・会場の座席を埋める多数の参加者があり、講演会は好評であったので、概ね達成している。
		B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・経費に応じた入場料を徴収するなど、財源確保に取り組んでいる。
		B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	・地域振興計画に位置付けられているとともに、市民の心の中や生活に潤いと豊かさを醸し出す、市長公約の達成に効果がある。
		B (1)	ある程度効果があった		
		C (0)	あまり効果が見られなかった		
合計		6 ／ 10	→	100点換算	60 点

分析・評価で明らかになった課題（「A」評価にするために何が必要なのかを記入）	・住民のニーズや事業目的に合う講演者の選定を行うとともに、今後の事業の在り方の検討も必要である。
（参考）H24事業評価結果（二次評価）	・全市的なバランスのなかから、地域振興特別予算の終期も踏まえた助成のあり方の再検討や事業費規模などについて、検討が必要である。 ・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、縮小（廃止）を検討する必要がある。

4　今後の方向性（Action）

課題等に対する今年度の対応状況	・住民のニーズや事業目的に合う講演者の選定を行いながら、今後の事業の在り方を検討

次年度の実施方針（担当課評価）		維持・改善		拡大	○	縮小		廃止の検討		H25完了予定
	・他地域で開催されている同種の事業と全市的な調整が必要である。									

二次評価（企画課・総務課・財政課評価）		維持・改善		拡大	○	縮小		廃止の検討		H25完了予定
	・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、縮小（廃止）を検討する必要がある。 ・文化芸術鑑賞事業との関係の整理、実績や効果の検証を行う必要がある。									

平成25年度事業評価シート（地域振興特別予算）

事業名	94799	地域伝統芸能保存会助成事業	担当課	一之宮支所　地域振興課	内線
	番枝				3421

予算			特別予算の位置付け			
会計	1	一般会計			A	合併前から実施されているイベント・行事
款	9	教育費		○	B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
項	4	社会教育費			C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
目	7	文化財費			D	その他事業

根拠計画	高山市地域振興計画
市長公約 9	伝統文化を守り、次代へ継承します ・地域の伝統文化を守る活動や、新しい高山の文化を創造していく活動を支援するため、芸術文化夢基金（芸術文化保存振興ファンド）を創設します。

1　事業の目的・概要（Plan）

目的	誰を（対象）	一之宮地域の小学5年生～中学3年生の男子	対象者数	81　人
目的	どういう状態にしたいのか（意図）	・地域の伝統芸能（闘鶏楽）の保存と伝承を図る。		
概要	事業の実施手法（手段）	・地域伝統芸能保存会活動への助成		

2　事業の推移・結果（Do）

成果面

H24の実績	・一之宮子ども会闘鶏楽伝承会（5月2日例祭参加）の活動費用にに高山市文化財等保護事業補助金を助成した。

	指標名	単位	目標・実績	H23	H24	H25
活動指標	伝承回数（練習および例祭）	回	目標値	5	5	5
			実績値	5	5	－
	算出根拠等		達成率(%)	100	100	－
成果指標	一之宮地域の子どもの参加率	%	目標値	70	70	70
			実績値	65	65	－
	算出根拠等　受益者数/一之宮全小5～中3男子		達成率(%)	93	93	－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－

補足事項

コスト面

事業費（人件費を除き繰越・補正を含む）	H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
歳出　（千円）　（A）	45	45	45
財源内訳　受益者負担（使用料・負担金等）			
財源内訳　その他特定財源（国・県支出金・起債等）			
財源内訳　一般財源	45	45	45
コスト指標　受益者1件当たり（円）　（A／B）	17	17	17
コスト指標　受益者　一之宮地域住民(4月1日現在)　（B）	2,633	2,625	2,623

3　分析・評価（Check）　※平成24年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明（評価の理由等）
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	・小学校の時から中学生まで5年間、闘鶏楽を習うことで地域の伝統芸能が次世代に継承され、地域文化の保護育成になっている。 ・一之宮地域では多くの町民が祭礼に関わっており、地域の文化としてかたくなに伝統行事が守られている。市内外からの見学客も多くニーズは高い。
		B (1)	ある程度のニーズがある		
		C (0)	ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	・無形文化財の保護育成のため高山市文化財等保護事業補助金として補助することが妥当である。
		B (1)	一部見直しが必要である		
		C (0)	市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	A	・子ども会の活動として、地域の伝統行事に参加する意識が高まり、成果は十分達成されている。
		B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・少額の経費（補助）で、伝統芸能を保存する目的が達成されているので、特に課題はない。
		B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	・地域振興計画に位置付けられているとともに、伝統芸能を守り継承する活動として市長公約の達成に結び付いている。
		B (1)	ある程度効果があった		
		C (0)	あまり効果が見られなかった		
合計		10 ／ 10	→	100点換算	100　点

分析・評価で明らかになった課題（「A」評価にするために何が必要なのかを記入）	・地域の伝統文化継承のため引き続き支援する必要がある。
（参考）H24事業評価結果（二次評価）	・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、縮小（廃止）を検討する必要がある。

4　今後の方向性（Action）

課題等に対する今年度の対応状況	・伝統芸能保存の観点から、引き続き補助していく。

次年度の実施方針（担当課評価）	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	・伝統芸能保存の観点から、引き続き補助していく。				

二次評価（企画課・総務課・財政課評価）	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	・市全体のバランスを考慮し、一般予算で実施しているものと整合を図りながら、今後の支援のあり方を検討する必要がある。				

平成25年度事業評価シート（地域振興特別予算）

事業名	94799 番枝	国指定天然記念物「臥龍桜」維持管理事業	担当課	一之宮支所　地域振興課	内線 3421
予算 会計	1	一般会計	特別予算の位置付け		A 合併前から実施されているイベント・行事
予算 款	9	教育費		○	B 一般予算の上乗せとして実施されている事業
予算 項	4	社会教育費			C 終期を定めて実施する事業・単年度事業
予算 目	7	文化財費			D その他事業
根拠計画		高山市地域振興計画			
市長公約	9	伝統文化を守り、次代へ継承します ・高山固有の美しさを守り続け、歴史的、社会的に価値のある有形無形の伝統文化や文化財などの資源を保存活用するために、美しいふるさと認証制度を創設します。			

1　事業の目的・概要（Plan）

目的	誰を（対象）	市民	対象者数	92,097　人
目的	どういう状態にしたいのか（意図）	・国指定天然記念物「臥龍のサクラ」の保護育成を図る。		
概要	事業の実施手法（手段）	・岐阜大学林教授等による、国指定天然記念物「臥龍桜」の保護育成指導 ・臥龍桜周辺の草刈、施肥の実施		

2　事業の推移・結果（Do）

成果面

H24の実績	・国指定天然記念物「臥龍桜」の保護育成のため、草刈・施肥を行った。学識経験者の指導を受け支柱交換を行った。

	指標名	単位	目標・実績	H23	H24	H25
活動指標	岐阜大学林教授等による現地診断回数	回	目標値	1	1	1
			実績値	2	1	－
	算出根拠等		達成率(%)	200	100	－
活動指標	草刈・施肥の回数	回	目標値	2	2	2
			実績値	3	3	－
	算出根拠等　実績値/目標値		達成率(%)	150	150	－
成果指標	臥龍桜見学者数	人	目標値	40,000	40,000	40,000
			実績値	30,000	30,000	－
	算出根拠等　実績値/目標値		達成率(%)	75	75	－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－

補足事項

コスト面

事業費（人件費を除き繰越・補正を含む）	H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
歳出（千円）（A）	65	423	650
財源内訳　受益者負担（使用料・負担金等）			
財源内訳　その他特定財源（国・県支出金・起債等）			
財源内訳　一般財源	65	423	650
コスト指標　受益者1件当たり（円）（A／B）	1	5	7
コスト指標　受益者　全市民（4月1日現在）（B）	93,312	92,861	92,097

3　分析・評価（Check）　※平成24年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明（評価の理由等）
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	・臥龍桜の開花時には市民のみならず、全国各地から多くの観光客が訪れ桜を見物することから、保護に対するニーズは非常に高い。 ・推定樹齢1100年の桜を後世に残す事は、市民の財産としてのニーズが非常に高い。
		B (1)	ある程度のニーズがある		
		C (0)	ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	・市所有の国指定天然記念物を維持管理することは所有者の義務である。
		B (1)	一部見直しが必要である		
		C (0)	市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	A	・保護事業により桜の樹勢も順調であり、毎年素晴らしい開花を見ることが出来ているので、成果は十分に上がっている。
		B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・通常の維持管理は市で行い、大規模な保護事業は国庫補助事業で行うよう文化庁から指導を受けている。23年度は支柱交換を国庫補助事業で行い財政負担を軽減した。 ・桜の樹勢維持のため必要最小限の経費で事業を実施している。
		B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	・地域振興計画に位置付けられているとともに、市長公約の「高山固有の美しさを守り続け、歴史的、社会的に価値のある文化財などの資源を保存活用する」を達成する効果が上がっている。
		B (1)	ある程度効果があった		
		C (0)	あまり効果が見られなかった		
合計		10 ／ 10	→	100点換算	100 点

分析・評価で明らかになった課題（「A」評価にするために何が必要なのかを記入）	・保護育成に向けて、引き続き事業を実施していく。
（参考）H24事業評価結果（二次評価）	・保護育成に向けて、引き続き事業を実施していく。

4　今後の方向性（Action）

課題等に対する今年度の対応状況	・保護育成に向けて、引き続き事業を実施していく。

次年度の実施方針（担当課評価）	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	・保護育成に向けて、引き続き事業を実施していく。 ・大規模な保護事業が必要になった場合は、国と連携し計画的な事業実施が必要である。				

二次評価（企画課・総務課・財政課評価）	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	（担当課評価に同じ）				

平成25年度事業評価シート（地域振興特別予算）

事業名	94799	位山道維持管理事業	担当課	一之宮支所　地域振興課	内線
	枝番				3421

予算			特別予算の位置付け			
会計	1	一般会計			A	合併前から実施されているイベント・行事
款	9	教育費		○	B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
項	4	社会教育費			C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
目	7	文化財費			D	その他事業

根拠計画	高山市地域振興計画
市長公約 9	伝統文化を守り、次代へ継承します ・高山固有の美しさを守り続け、歴史的、社会的に価値のある有形無形の伝統文化や文化財などの資源を保存活用するために、美しいふるさと認証制度を創設します。

1　事業の目的・概要（Plan）

目的	誰を（対象）	全市民	対象者数	92,097　人
	どういう状態にしたいのか（意図）	・奈良時代からの官道遺構「位山道」（市指定文化財）の維持管理を図る。 ・高山固有の文化を後世に継承する。		
概要	事業の実施手法（手段）	・位山道の維持管理（草刈）の実施 ・位山道の修繕		

2　事業の推移・結果（Do）

成果面

H24の実績	・位山道の草刈を2回実施

	指標名	単位	目標・実績	H23	H24	H25
活動指標	草刈回数	回	目標値	3	3	3
			実績値	2	2	－
	算出根拠等		達成率(%)	67	67	－
成果指標	位山道への来客前年度比率	%	目標値	3	3	3
			実績値	3	3	－
	算出根拠等　当年度来客数/前年度来客数		達成率(%)	100	100	－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－

補足事項

コスト面

事業費（人件費を除き繰越・補正を含む）			H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
歳出（千円）		（A）	66	324	300
財源内訳	受益者負担（使用料・負担金等）				
	その他特定財源（国・県支出金・起債等）				
	一般財源		66	324	300
コスト指標	受益者1件当たり（円）	（A／B）	1	3	3
	受益者　全市民（4月1日現在）	（B）	93,312	92,861	92,097

3　分析・評価（Check）　※平成24年度の実績を評価

評価項目		評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明（評価の理由等）
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	B	・街道（歴史）ブームやウオーキングなどの健康志向により、歴史ある街道を訪れる市民が増えている。
			B (1)	ある程度のニーズがある		
			C (0)	ニーズが低い		
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	・文化財などの資源を守り継承するためにも、市が事業実施する必要がある。
			B (1)	一部見直しが必要である		
			C (0)	市が実施する必要性が低い		
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	B	・年々街道ウオーキングイベントの開催回数が増えていることから、成果はある程度あがっている。
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
			C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である		
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・少人数・短期間で事業実施を行っているので、コスト縮減は図られている。
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	B	・官道を散策することは、歴史探訪や健康意識への市民ニーズに対応しており、事業実施はある程度効果がある。
			B (1)	ある程度効果があった		
			C (0)	あまり効果が見られなかった		

合計	7 ／ 10	→	100点換算	70 点

分析・評価で明らかになった課題（「A」評価にするために何が必要なのかを記入）	・位山道（東山道飛騨支路）として都から飛騨へと文化が伝わった歴史ある道をより多くの人々に知ってもらう取組みが必要である。
（参考）H24事業評価結果（二次評価）	・利活用について検討する必要がある。

4　今後の方向性（Action）

課題等に対する今年度の対応状況	・草刈りの他、官道の整備を実施する。

次年度の実施方針（担当課評価）	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	・歴史ある官道を守り、高山の文化にかかる官道の重要性を後世に引継ぐために、引続き事業を継続する。				

二次評価（企画課・総務課・財政課評価）	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	・市全体のバランスを考慮し、一般予算で実施しているものと整合を図りながら、今後の事業のあり方を検討する必要がある。				

平成25年度事業評価シート（地域振興特別予算）

事業名	95199	地域スポーツ振興事業 （一之宮体育大会開催事業）	担当課	一之宮支所　地域振興課	内線
	番枝				3413

予算			特別予算の位置付け			
会計	1	一般会計			A	合併前から実施されているイベント・行事
款	9	教育費		○	B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
項	5	保健体育費			C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
目	1	体育総務費			D	その他事業

根拠計画	高山市地域振興計画
市長公約	

1　事業の目的・概要（Plan）

目的	誰を（対象）	一之宮地域の住民	対象者数	2,623　人
	どういう状態にしたいのか（意図）	・町民がスポーツに親しむことで健康増進を進めるとともに、コミュニティ醸成の向上を図る。		
概要	事業の実施手法（手段）	・一之宮社会教育推進運営委員会が実施する一之宮体育大会事業への助成		

2　事業の推移・結果（Do）

成果面

H24の実績	・一之宮町社会教育推進運営委員会体育部によって8月26日に一之宮体育大会が実施された。（参加者440人） ・3月16日には町民スキー大会が実施された。（参加者72人）

	指標名	単位	目標・実績	H23	H24	H25
活動指標	競技参加者数	人	目標値	450	450	450
			実績値	350	512	－
	算出根拠等		達成率(%)	78	114	－
成果指標	町内加入率	%	目標値	100	100	100
			実績値	75	75	－
	算出根拠等：町内加入世帯数/全世帯数		達成率(%)	75	75	－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－

補足事項

コスト面

事業費（人件費を除き繰越・補正を含む）	H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
歳出（千円）（A）	160	150	140
財源内訳：受益者負担（使用料・負担金等）			
財源内訳：その他特定財源（国・県支出金・起債等）			
財源内訳：一般財源	160	150	140
コスト指標：受益者1件当たり（円）（A／B）	61	57	53
コスト指標：受益者　一之宮地域住民(4月1日現在)（B）	2,633	2,625	2,623

3　分析・評価（Check）　※平成24年度の実績を評価

	評価項目	評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明（評価の理由等）
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	・一之宮地域において、子供から高齢者までが交流でき、町民が楽しみにしている事業であり、依然としてニーズは高い。
			B (1)	ある程度のニーズがある		
			C (0)	ニーズが低い		
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	B	・一之宮地域の町民がスポーツを通して多世代交流することで、地域の活性化にもつながるので、市が補助することは妥当であるが、自主運営による継続実施に向けた調整が必要である。
			B (1)	一部見直しが必要である		
			C (0)	市が実施する必要性が低い		
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	B	・社教体育部の実施する事業であり、地域の主体性から概ね達成されている。
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
			C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である		
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・自主事業に向けた展開ができるように進めている。
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	・地域振興計画に位置付けられ、一之宮町民の体育振興につながるため、重要性は高い。長年開催されている事業で当地域に定着しており、町民の健康増進と多世代交流ができるため効果が上がっている。
			B (1)	ある程度効果があった		
			C (0)	あまり効果が見られなかった		
合計			7 ／ 10	→	100点換算	70　点

分析・評価で明らかになった課題（「A」評価にするために何が必要なのかを記入）	・地域の中で長年継続され、定着している事業なので、自主運営による継続実施に向けた調整が必要である。
（参考）H24事業評価結果（二次評価）	・地域の自主的な活動とすべく、負担金の段階的な引き下げを行う必要がある。 ・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、縮小（廃止）を検討する必要がある。

4　今後の方向性（Action）

課題等に対する今年度の対応状況	・一之宮町民の社会体育の振興と健康増進といった観点から引き続き実施していくとともに、自主運営による継続実施に向けた調整を図る。

次年度の実施方針（担当課評価）		維持・改善		拡大	○	縮小		廃止の検討		H25完了予定
	・一之宮町民の社会体育の振興と健康増進といった観点から引き続き実施していくとともに、自主運営による継続実施に向けた調整が必要である。									

二次評価（企画課・総務課・財政課評価）		維持・改善		拡大	○	縮小		廃止の検討		H25完了予定
	・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、縮小（廃止）を検討する必要がある。									

平成25年度事業評価シート（地域振興特別予算）

事業名	21899 番枝	「源流の里」ほたるの舞う里づくり事業	担当課	一之宮支所　基盤産業課	内線 3431
予算 会計	1	一般会計	特別予算の位置付け		A 合併前から実施されているイベント・行事
予算 款	2	総務費			B 一般予算の上乗せとして実施されている事業
予算 項	1	総務管理費		○	C 終期を定めて実施する事業・単年度事業
予算 目	18	環境政策費			D その他事業
根拠計画		地域振興計画			
市長公約	1	積極的な観光振興策を実施します ・合併後の周辺の自然環境や地域特有の伝統文化など多様な観光資源を新たな観光資源として積極的に活用します。			

1　事業の目的・概要（Plan）

目的	誰を（対象）	全市民	対象者数	92,097　人
目的	どういう状態にしたいのか（意図）	・源流地域の恵まれた自然を守り、地域住民の愛郷精神を育む。		
概要	事業の実施手法（手段）	・ホタルの生息しやすい環境整備や生息調査を実施する。 ・生息調査地点には「蛍の舞う町」という看板を設置し、地域に啓発する。		

2　事業の推移・結果（Do）

成果面

H24の実績	・ホタルの生息調査 ・ホタルの環境整備

	指標名	単位	目標・実績	H23	H24	H25
活動指標	ホタルの環境整備箇所数	箇所	目標値	2	1	1
			実績値	2	1	－
	算出根拠等		達成率(%)	100	100	－
成果指標	ホタルの個体確認数	匹	目標値	200	300	400
			実績値	235	156	－
	算出根拠等		達成率(%)	118	52	－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－

補足事項

コスト面

事業費（人件費を除き繰越・補正を含む）	H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
歳出（千円）（A）	255	289	400
財源内訳　受益者負担（使用料・負担金等）			
財源内訳　その他特定財源（国・県支出金・起債等）			
財源内訳　一般財源	255	289	400
コスト指標　受益者1件当たり（円）（A／B）	3	3	4
コスト指標　受益者　全市民（B）	93,312	92,861	92,097

3　分析・評価（Check）　※平成24年度の実績を評価

	評価項目	評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明（評価の理由等）
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	B	・ホタルが生息できるような環境整備を実施することにより、地域に残る原風景の保存や自然環境保護に対する意識の向上が図られることからある程度ニーズがある。
			B (1)	ある程度のニーズがある		
			C (0)	ニーズが低い		
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	・ホタルが生息できるような環境整備（ハード整備）が整うまでは、市が実施することは妥当である。
			B (1)	一部見直しが必要である		
			C (0)	市が実施する必要性が低い		
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	B	・ホタルが生息できるような環境整備は着実に実施され、個体確認数が減少しているものの、目的とする成果がある程度あがっている。
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
			C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である		
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・本事業は地元のNPO法人に委託しており、必要最小限の経費で取り組んでいるため、適正である。
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	B	・身近に生息するホタルを通して、郷土愛や自然保護に対する意識高揚が図れることからある程度効果があった。
			B (1)	ある程度効果があった		
			C (0)	あまり効果が見られなかった		
合計			7 ／ 10	→	100点換算	70 点

分析・評価で明らかになった課題（「A」評価にするために何が必要なのかを記入）	・ホタルの個体数を更に増加させ、地域にとって身近に感じるような取り組みが必要である。
（参考）H24事業評価結果（二次評価）	・他の地域とのバランスを考慮し、今後の支援のあり方を検討する必要がある。 ・一般予算で実施している蛍保護推進事業との整合を図る必要がある。

4　今後の方向性（Action）

課題等に対する今年度の対応状況	・ホタルの個体数の情報や保護活動の情報を地域にPRする。

次年度の実施方針（担当課評価）	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	・引き続き、ホタルの生息調査や環境整備を実施する。				

二次評価（企画課・総務課・財政課評価）	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	・市全体のバランスを考慮し、一般予算で実施しているものと整合を図りながら今後の事業のあり方検討する必要がある。				

平成25年度事業評価シート（地域振興特別予算）

事業名	53299	ダナ平林道整備事業	担当課	一之宮支所　基盤産業課	内線
	番枝				3431

予算			特別予算の位置付け			
会計	1	一般会計			A	合併前から実施されているイベント・行事
款	5	農林水産業費			B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
項	3	林業費		○	C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
目	2	林業振興費			D	その他事業

根拠計画	地域振興計画
市長公約 1	積極的な観光振興策を実施します ・合併後の周辺の自然環境や地域特有の伝統文化など多様な観光資源を新たな観光資源として積極的に活用します。

1　事業の目的・概要（Plan）

目的	誰を（対象）	ダナ平林道利用者	対象者数	2,100　人
目的	どういう状態にしたいのか（意図）	・林業の振興と森林のもつ多面的な機能を維持する。		
概要	事業の実施手法（手段）	・勾配が急な区間において計画的に路面を舗装整備する。		

2　事業の推移・結果（Do）

成果面

H24の実績	・舗装の新設工事を計画的に実施する。

	指標名	単位	目標・実績	H23	H24	H25
活動指標	舗装済延長	m	目標値	2,279	2,599	2,879
			実績値	2,283	2,579	－
	算出根拠等		達成率(%)	100	99	－
成果指標	位山登山者数	人	目標値	1,900	2,000	2,100
			実績値	2,270	2,260	－
	算出根拠等		達成率(%)	119	113	－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－

補足事項

コスト面

事業費（人件費を除き繰越・補正を含む）			H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
歳出（千円）		（A）	4,841	4,326	5,000
財源内訳	受益者負担（使用料・負担金等）				
	その他特定財源（国・県支出金・起債等）		2,420	2,163	2,500
	一般財源		2,421	2,163	2,500
コスト指標	受益者1件当たり（円）	（A／B）	2,133	1,914	2,381
	受益者　位山登山者	（B）	2,270	2,260	2,100

3　分析・評価（Check）　※平成24年度の実績を評価

評価項目		評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明（評価の理由等）
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	B	・位山登山道や巨樹・巨木を訪れる方などダナ平林道の利用についてはある程度ニーズがある。
			B (1)	ある程度のニーズがある		
			C (0)	ニーズが低い		
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	・市が管理すべき施設のため、事業主体を見直す余地はない。
			B (1)	一部見直しが必要である		
			C (0)	市が実施する必要性が低い		
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	B	・レクリエーション機能など多面的な機能をもつ林道を整備することは利用者の利便性向上が図られ、目的とする成果がある程度あがっている。
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
			C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である		
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・県の補助事業として採択されており、コスト縮減や経費節減に努め計画的に事業を実施している。
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	B	・ダナ平林道は位山登山道にアクセスする道路になっているため、自然資源を観光資源として活用するために有用であることからある程度効果がある。
			B (1)	ある程度効果があった		
			C (0)	あまり効果が見られなかった		

合計	7 ／ 10	→	100点換算	70 点

分析・評価で明らかになった課題（「A」評価にするために何が必要なのかを記入）	・コスト縮減に努め、計画的に事業を実施する必要がある。
（参考）H24事業評価結果（二次評価）	・できるだけ早期に完成するよう計画的に事業推進を行う必要がある。

4　今後の方向性（Action）

課題等に対する今年度の対応状況	・コスト縮減に努め、計画的に事業を実施する。

次年度の実施方針（担当課評価）		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H25完了予定

二次評価（企画課・総務課・財政課評価）		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H25完了予定

平成25年度事業評価シート（地域振興特別予算）

事業名	62399	スキー場案内看板撤去事業	担当課	一之宮支所　基盤産業課	内線
	番枝				3431

予算			特別予算の位置付け			
会計	1	一般会計			A	合併前から実施されているイベント・行事
款	6	商工費			B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
項	2	観光費		○	C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
目	2	観光施設費			D	その他事業

根拠計画	
市長公約	

1　事業の目的・概要（Plan）

目的	誰を（対象）	モンデウス飛騨位山スノーパーク来場者	対象者数	50,000　人
	どういう状態にしたいのか（意図）	・老朽化し、PR効果が少ないスキー場案内看板を撤去する。		
概要	事業の実施手法（手段）	・老朽看板の撤去		

2　事業の推移・結果（Do）

成果面

H24の実績	

指標名	単位	目標・実績	H23	H24	H25
活動指標　スキー場案内看板撤去数	基	目標値	0	0	1
		実績値	0	0	－
算出根拠等		達成率(%)			－
		目標値			
		実績値			－
算出根拠等		達成率(%)			－
		目標値			
		実績値			－
算出根拠等		達成率(%)			－
		目標値			
		実績値			－
算出根拠等		達成率(%)			－
		目標値			
		実績値			－
算出根拠等		達成率(%)			－
		目標値			
		実績値			－
算出根拠等		達成率(%)			－

補足事項

コスト面

事業費（人件費を除き繰越・補正を含む）			H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
歳出（千円）		（A）	0	0	300
財源内訳	受益者負担（使用料・負担金等）				
	その他特定財源（国・県支出金・起債等）				
	一般財源		0	0	300
コスト指標	受益者1件当たり（円）	（A／B）	0	0	6
	受益者　モンデウス飛騨位山スノーパーク来場者数	（B）	45,072	43,136	50,000

3　分析・評価（Check）　※平成24年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明（評価の理由等）
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	評価対象外	・H25新規事業
		B (1)	ある程度のニーズがある		
		C (0)	ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	評価対象外	・H25新規事業
		B (1)	一部見直しが必要である		
		C (0)	市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	評価対象外	・H25新規事業
		B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	評価対象外	・H25新規事業
		B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	評価対象外	・H25新規事業
		B (1)	ある程度効果があった		
		C (0)	あまり効果が見られなかった		
合計		／	→	100点換算	評価対象外　点

分析・評価で明らかになった課題（「A」評価にするために何が必要なのかを記入）	
（参考）H24事業評価結果（二次評価）	

4　今後の方向性（Action）

課題等に対する今年度の対応状況	

次年度の実施方針（担当課評価）		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H25完了予定

二次評価（企画課・総務課・財政課評価）		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H25完了予定

平成25年度事業評価シート（地域振興特別予算）

事業名	62499 番枝	「源流の里」登山道・遊歩道整備事業	担当課	一之宮支所　基盤産業課	内線 3431
予算 会計	1	一般会計	特別予算の位置付け		A 合併前から実施されているイベント・行事
予算 款	6	商工費			B 一般予算の上乗せとして実施されている事業
予算 項	2	観光費		○	C 終期を定めて実施する事業・単年度事業
予算 目	3	自然公園費			D その他事業
根拠計画		地域振興計画			
市長公約	1	積極的な観光振興策を実施します ・合併後の周辺の自然環境や地域特有の伝統文化など多様な観光資源を新たな観光資源として積極的に活用します。			

1　事業の目的・概要（Plan）

目的	誰を（対象）	登山道利用者	対象者数	2,100　人
目的	どういう状態にしたいのか（意図）	・恵まれた自然を守り、新たな観光スポットの創出による地域活性化を図る。		
概要	事業の実施手法（手段）	・登山道・遊歩道など自然とのふれあいや自然を学ぶことができる場を整備する。		

2　事業の推移・結果（Do）

成果面

H24の実績	・位山登山道（スキー場経由）の整備 ・位山登山道（政板経由）の整備

	指標名	単位	目標・実績	H23	H24	H25
活動指標	登山道・遊歩道整備延長	m	目標値	2,900	4,550	3,900
			実績値	2,900	4,540	－
	算出根拠等		達成率(%)	100	100	－
成果指標	位山登山者数	人	目標値	1,900	2,000	2,100
			実績値	2,270	2,260	－
	算出根拠等		達成率(%)	119	113	－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－

補足事項

コスト面

事業費（人件費を除き繰越・補正を含む）			H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
歳出（千円）		（A）	4,899	5,496	5,000
財源内訳	受益者負担（使用料・負担金等）				
財源内訳	その他特定財源（国・県支出金・起債等）				
財源内訳	一般財源		4,899	5,496	5,000
コスト指標	受益者1件当たり（円）	（A／B）	2,158	2,432	2,381
コスト指標	受益者　登山道利用者数	（B）	2,270	2,260	2,100

3　分析・評価（Check）　※平成24年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明（評価の理由等）
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	B	・位山登山道や巨樹・巨木を訪れる方など登山道・遊歩道の利用についてはある程度ニーズがある。
		B (1)	ある程度のニーズがある		
		C (0)	ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	・地域の自然資源を観光資源として有効に活用できるよう市が登山道・遊歩道を整備することは、地域振興や観光振興となり妥当である。
		B (1)	一部見直しが必要である		
		C (0)	市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	A	・レクリエーション機能を有する山林に登山道・遊歩道を整備することは、利用者の利便性の向上になり成果があがっている。
		B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・登山道・遊歩道整備に必要な資材については、現地の間伐材を利用するなどコスト縮減に努め、計画的に事業を実施している。
		B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	B	・地域を象徴する位山や川上岳など観光資源の有効利用や利用者の利便性向上にはある程度効果があった。
		B (1)	ある程度効果があった		
		C (0)	あまり効果が見られなかった		
合計		8 ／ 10	→	100点換算	80 点

分析・評価で明らかになった課題（「A」評価にするために何が必要なのかを記入）	・登山者が利用しやすい登山道・遊歩道整備を行う必要がある。
（参考）H24事業評価結果（二次評価）	・整備した登山道等の活用の促進を図る必要がある。

4　今後の方向性（Action）

課題等に対する今年度の対応状況	・登山者が利用しやすいような登山道整備に加え、道案内標識を効果的に整備する。

次年度の実施方針（担当課評価）		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H25完了予定

二次評価（企画課・総務課・財政課評価）		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H25完了予定

平成25年度事業評価シート（地域振興特別予算）

事業名	94799 番枝	天然記念物(希少動植物)生態環境調査事業	担当課	一之宮支所　地域振興課	内線 3421
予算 会計	1	一般会計	特別予算の位置付け		A 合併前から実施されているイベント・行事
予算 款	9	教育費			B 一般予算の上乗せとして実施されている事業
予算 項	4	社会教育費		○	C 終期を定めて実施する事業・単年度事業
予算 目	7	文化財費			D その他事業
根拠計画		高山市地域振興計画			
市長公約	9	伝統文化を守り、次代へ継承します ・高山固有の美しさを守り続け、歴史的、社会的に価値のある有形無形の伝統文化や文化財などの資源を保存活用するために、美しいふるさと認証制度を創設します。			

1　事業の目的・概要（Plan）

目的	誰を（対象）	全市民	対象者数	92,097　人
目的	どういう状態にしたいのか（意図）	・一之宮地域には市指定天然記念物として希少動植物（苅安湿原植物群自生地、バイカモ、ミヤマシジミ）が指定されているが、昨今の環境変化等による影響が危惧されている。当該動植物の生態状況を調査することで、今後の保護対策を図る。		
概要	事業の実施手法（手段）	・苅安湿原環境対策調査（湿原保全、植生保存等対策方法の検討等） ・ミヤマシジミ、バイカモの生態調査および保存対策の検討		

2　事業の推移・結果（Do）

成果面						
H24の実績	・苅安湿原環境対策調査（湿原保全、植生保存等対策方法の検討等）、ミヤマシジミ、バイカモの生態調査を行い、苅安湿原の保全対策を実施した。					
	指標名	単位	目標・実績	H23	H24	H25
活動指標	現地生態調査の実施回数	回	目標値		3	3
			実績値		3	－
	算出根拠等		達成率(%)		100	－
成果指標	湿原回復率	%	目標値		100	
			実績値		60	－
	算出根拠等　湿原回復面積/湿原全体面積		達成率(%)		60	－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
補足事項						

コスト面			H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
事業費（人件費を除き繰越・補正を含む）	歳出（千円）	（A）	0	1,013	830
財源内訳	受益者負担（使用料・負担金等）				
	その他特定財源（国・県支出金・起債等）				
	一般財源		0	1,013	830
コスト指標	受益者1件当たり（円）	（A／B）	0	11	9
	受益者　全市民（4月1日現在）	（B）	93,312	92,861	92,097

3　分析・評価（Check）　※平成24年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明（評価の理由等）
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	B	・苅安湿原には、分水嶺の碑も設置されており、観光客や修学旅行生など、訪れる人も多い。
		B (1)	ある程度のニーズがある		
		C (0)	ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	・苅安湿原植物群自生地、バイカモ、ミヤマシジミは、市指定天然記念物であり、市が保護対策を講じなければならない。
		B (1)	一部見直しが必要である		
		C (0)	市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	B	・水環境調査を実施し、湿原の現状の調査・記録を行った。
		B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・事業コストは、最小限の経費で取り組んでおり、適正である。
		B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	B	・市指定天然記念物の保護や保存は、貴重な自然資源を後世に残すだけでなく、観光資源として地域振興に寄与できる。
		B (1)	ある程度効果があった		
		C (0)	あまり効果が見られなかった		
合計		7 ／ 10	→	100点換算	70　点

分析・評価で明らかになった課題（「A」評価にするために何が必要なのかを記入）	・今までの調査結果を基に、湿原植物の保護育成方法等の保全対策を策定し、湿原の再生を促すための取り組みが必要である。
（参考）H24事業評価結果（二次評価）	・市天然記念物保護における自然体のバランスを考慮しつつ、文化財課と調整を図りながら実施する必要がある。

4　今後の方向性（Action）

課題等に対する今年度の対応状況	・今までの調査結果を基に、専門家の立場から湿原の再生方法、湿原植物の保護育成方法等の保全対策を策定する。

次年度の実施方針（担当課評価）		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H25完了予定

二次評価（企画課・総務課・財政課評価）		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H25完了予定

平成25年度事業評価シート（地域振興特別予算）

事業名	62199	清酒臥龍桜醸造助成事業	担当課	一之宮支所　基盤産業課	内線
	番枝				3431

予算			特別予算の位置付け			
会計	1	一般会計			A	合併前から実施されているイベント・行事
款	6	商工費			B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
項	2	観光費			C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
目	1	観光振興費		○	D	その他事業

根拠計画	地域振興計画
市長公約 1	積極的な観光振興策を実施します ・合併後の周辺の自然環境や地域特有の伝統文化など多様な観光資源を新たな観光資源として積極的に活用します。

1　事業の目的・概要（Plan）

目的	誰を（対象）	全市民	対象者数	92,097　人
目的	どういう状態にしたいのか（意図）	・地域の特産品として清酒臥龍桜を利用した観光振興を図る。 ・臥龍桜日本画大賞展の知名度アップを図る。		
概要	事業の実施手法（手段）	・清酒臥龍桜を一之宮地域のみで限定販売する。 ・清酒ラベルに日本画大賞展審査員の原画を採用する。 ・清酒臥龍桜を醸造する飛騨一之宮酒販売組合に補助金を交付する。		

2　事業の推移・結果（Do）

成果面

H24の実績	・清酒臥龍桜のラベル原画代 ・臥龍桜・桜まつり会場における販売啓発活動

	指標名	単位	目標・実績	H23	H24	H25
活動指標	清酒臥龍桜出荷本数		目標値	2,000	2,000	2,000
			実績値	2,000	1,700	－
	算出根拠等		達成率(%)	100	85	－
成果指標	清酒臥龍桜販売本数		目標値	2,000	2,000	2,000
			実績値	1,800	1,500	－
	算出根拠等		達成率(%)	90	75	－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－

補足事項

コスト面

事業費（人件費を除き繰越・補正を含む）			H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
歳出（千円）		（A）	150	150	150
財源内訳	受益者負担（使用料・負担金等）				
	その他特定財源（国・県支出金・起債等）				
	一般財源		150	150	150
コスト指標	受益者1件当たり（円）	（A／B）	2	2	2
	受益者　全市民	（B）	93,312	92,861	92,097

3　分析・評価（Check）　※平成24年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明（評価の理由等）
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	B	・地元限定販売の特産品としてある程度ニーズがある。
		B (1)	ある程度のニーズがある		
		C (0)	ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	・臥龍桜日本画大賞展の審査員の商品ラベルを採用していることや位山の湧水を取水して醸造していることなど、地域の観光宣伝に有効であることから市が関与することについては妥当である。
		B (1)	一部見直しが必要である		
		C (0)	市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	B	・販売本数は減少しつつあるが、ある程度成果があがっている。
		B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・事業コストは必要最小限の経費で取り組んでいるため、適正である。
		B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	B	・臥龍桜や位山の源流（湧水）の宣伝効果もあり情報発信としては効果的である。
		B (1)	ある程度効果があった		
		C (0)	あまり効果が見られなかった		

合計	7 ／ 10	→	100点換算	70 点

分析・評価で明らかになった課題（「A」評価にするために何が必要なのかを記入）	・新たな地域イベントで販売するなど販路を拡大する必要がある。
（参考）H24事業評価結果（二次評価）	・特例期間終了を見据え、全体のバランスを考慮し、行政の関与・負担金について縮小（廃止）を検討する必要がある。

4　今後の方向性（Action）

課題等に対する今年度の対応状況	・新たな地域イベントで販売するなど販路を拡大する。

次年度の実施方針（担当課評価）	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	・特例期間終了を見据え、事業者が自主的に取り組むことができるよう検討していく必要がある。				

二次評価（企画課・総務課・財政課評価）	維持・改善	拡大	○ 縮小	廃止の検討	H25完了予定
	・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、行政の支援について縮小（廃止）を検討していく必要がある。				

平成25年度事業評価シート（地域振興特別予算）

事業名	74699	地域公園管理振興事業	担当課	一之宮支所　地域振興課	内線
	番枝				3411

予算			特別予算の位置付け			
会計	1	一般会計			A	合併前から実施されているイベント・行事
款	7	土木費			B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
項	4	都市計画費		○	C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
目	6	公園管理費			D	その他事業

根拠計画	
市長公約	

1　事業の目的・概要（Plan）

目的	誰を（対象）	全市民	対象者数	92,097　人
	どういう状態にしたいのか（意図）	・土地開発基金保有地（公園用地）の買戻しをする。		
概要	事業の実施手法（手段）	・地区公園一箇所（臥龍公園）の一般予算による買戻し		

2　事業の推移・結果（Do）

成果面

H24の実績	・H25新規事業

指標名	単位	目標・実績	H23	H24	H25
		目標値			
		実績値			－
算出根拠等		達成率(%)			－
		目標値			
		実績値			－
算出根拠等		達成率(%)			－
		目標値			
		実績値			－
算出根拠等		達成率(%)			－
		目標値			
		実績値			－
算出根拠等		達成率(%)			－
		目標値			
		実績値			－
算出根拠等		達成率(%)			－
		目標値			
		実績値			－
算出根拠等		達成率(%)			－

補足事項

コスト面

事業費（人件費を除き繰越・補正を含む）			H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
歳出（千円）		（A）	0	0	3,900
財源内訳	受益者負担（使用料・負担金等）				
	その他特定財源（国・県支出金・起債等）				
	一般財源				3,900
コスト指標	受益者1件当たり（円）	（A／B）			42
	受益者	全市民（4月1日現在）（B）			92,097

3　分析・評価（Check）　※平成24年度の実績を評価

評価項目		評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明（評価の理由等）
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	評価対象外	平成25年度新規事業
			B (1)	ある程度のニーズがある		
			C (0)	ニーズが低い		
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	評価対象外	平成25年度新規事業
			B (1)	一部見直しが必要である		
			C (0)	市が実施する必要性が低い		
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	評価対象外	平成25年度新規事業
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
			C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である		
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	評価対象外	平成25年度新規事業
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	評価対象外	平成25年度新規事業
			B (1)	ある程度効果があった		
			C (0)	あまり効果が見られなかった		
合計		／	→		100点換算	評価対象外　点

分析・評価で明らかになった課題（「A」評価にするために何が必要なのかを記入）	
（参考）H24事業評価結果（二次評価）	

4　今後の方向性（Action）

課題等に対する今年度の対応状況	・合併前に公園用地として基金で取得した用地の買戻しが必要である。

次年度の実施方針（担当課評価）	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	・他の土地開発基金公園用地についても計画的な買戻しが必要である。				

二次評価（企画課・総務課・財政課評価）	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	（担当課評価に同じ）				

平成25年度事業評価シート（地域振興特別予算）

事業名	92299	地域小学校教育振興事業 （岩瀬小学校交流推進事業）	担当課	一之宮支所　地域振興課	内線
	番枝				3421

予算			位置付け（特別予算の）			
会計	1	一般会計			A	合併前から実施されているイベント・行事
款	9	教育費			B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
項	2	小学校費			C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
目	2	教育振興費		○	D	その他事業

根拠計画	高山市地域振興計画
市長公約	

1　事業の目的・概要（Plan）

目的	誰を（対象）	一之宮地域の小学5年生	対象者数	28　人
	どういう状態にしたいのか（意図）	・神通川の源流域と下流域（富山県岩瀬地区）の子どもたちが交流することで、源流域の森の大切さを知るとともに自然保護の重要性を学んでもらう。		
概要	事業の実施手法（手段）	・神通川の最終到達点である富山県岩瀬地区の小学5年生との交流を実施する。		

2　事業の推移・結果（Do）

成果面

H24の実績	・宮川（神通川）の源流域の宮小5年生が5月に宮川源流探検で川の支流に沿って位山登山、6月にカワゲラウオッチング 河川環境調査の事前学習をし、6月に河口域の富山市岩瀬小学校との交流を通じ河口までの川の様子を調べた。 ・10月に宮川の清掃活動もし、11月に研究成果を「がりゅう発表会」で他学年児童や保護者等に公表した。

	指標名	単位	目標・実績	H23	H24	H25
活動指標	参加人数	人	目標値	26	34	28
			実績値	25	34	－
	算出根拠等		達成率(%)	96	100	－
成果指標	交流参加率	%	目標値	100	100	100
			実績値	96	100	－
	算出根拠等　参加者数/対象者数		達成率(%)	96	100	－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－

補足事項

コスト面

事業費（人件費を除き繰越・補正を含む）	H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
歳出（千円）（A）	110	110	110
財源内訳　受益者負担（使用料・負担金等）			
財源内訳　その他特定財源（国・県支出金・起債等）			
財源内訳　一般財源	110	110	110
コスト指標　受益者1件当たり（円）（A／B）	4,231	3,235	3,929
コスト指標　受益者　一之宮地域小学5年生（B）	26	34	28

3　分析・評価（Check）　※平成24年度の実績を評価

	評価項目	評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明（評価の理由等）
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	B	・交流した児童が、市民に対して体験研究発表、啓発しており、ニーズはある。
			B (1)	ある程度のニーズがある		
			C (0)	ニーズが低い		
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	・市が事業の助成を行うことは7次総目標「体験学習、学校間の交流などの個性や能力を伸ばす教育を行う」の具現化に繋がり、妥当である。
			B (1)	一部見直しが必要である		
			C (0)	市が実施する必要性が低い		
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	A	・地元だけでなく、最下流のことを知り、その児童たちと自然の重要性を共有することは非常に有効である。
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
			C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である		
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・負担金を徴収するなど、市負担金の縮減に努めている。
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	B	・交流した児童が、市民に対して体験研究発表、啓発しており、概ね市民全体への効果はある。
			B (1)	ある程度効果があった		
			C (0)	あまり効果が見られなかった		

合計	7 ／ 10	→	100点換算	70 点

分析・評価で明らかになった課題（「A」評価にするために何が必要なのかを記入）	・地域振興特別予算終了を見据え、現在実施している他市町村学校との交流の高山市全体のバランスを考慮し、縮小・事業統合・自主事業化などを検討する必要がある。
（参考）H24事業評価結果（二次評価）	・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、縮小（廃止）を検討する必要がある。

4　今後の方向性（Action）

課題等に対する今年度の対応状況	・源流域の役割を認識させるための事業として重要であるので、平成26年度まで引続き実施していく。 ・「岩瀬小との交流実行委員会」の明確化が必要 ・一之宮社教こども会主催の同種の事業との将来に向けた調整も必要

次年度の実施方針（担当課評価）		維持・改善		拡大	○	縮小		廃止の検討		H25完了予定
	・源流域の役割を認識させるための事業として重要であるので、平成26年度まで引続き実施する。地域振興特別予算終了を見据え、高山市全体の他市町村等の学校間交流のバランスを考慮する必要がある。また、交流相手の学校も年間行事日程策定があるため、廃止または事業変更等は2年程前に通知が必要と思われる。									

二次評価（企画課・総務課・財政課評価）		維持・改善		拡大	○	縮小		廃止の検討		H25完了予定
	・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、縮小（廃止）を検討する必要がある。									

平成25年度事業評価シート（地域振興特別予算）

事業名	20999	地域振興助成事業	担当課	一之宮支所　地域振興課	内線
	番枝				3411

予算			位置付け（特別予算の）			
会計	1	一般会計			A	合併前から実施されているイベント・行事
款	2	総務費			B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
項	1	総務管理費			C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
目	9	企画費		○	D	その他事業

根拠計画	高山市地域振興計画
市長公約	合併のメリットを活かし、それぞれの地域の特性を伸ばします 地域住民から信頼される支所運営を目指し、支所機能の強化をはかるために、権限と予算の再構築を行います。

1　事業の目的・概要（Plan）

目的	誰を（対象）	一之宮地域の住民	対象者数	2,623　人
目的	どういう状態にしたいのか（意図）	・地域住民の創意と工夫による魅力ある地域づくりを推進するため、住民自らが主体となって事業に取り組むことにより、地域の活性と地域コミュニティの醸成を図る。		
概要	事業の実施手法（手段）	・地域住民が自主的に取り組む、公共性の高い事業に対しての助成		

2　事業の推移・結果（Do）

H24の実績	・一之宮地域の町内会や任意団体 計11団体から申請および実績があった。住民自らが主体となって地域振興事業に取り組まれた結果、安全安心な住環境が整うとともに、特色ある地域づくりや地域活性化、地域コミュニティの醸成が図られた。

成果面

	指標名	単位	目標・実績	H23	H24	H25
活動指標	補助金交付申請件数	件	目標値	10	10	4
			実績値	10	11	－
	算出根拠等		達成率(%)	100	110	－
活動指標	補助金交付申請額	千円	目標値	3,000	3,500	1,500
			実績値	2,835	3,303	－
	算出根拠等　交付申請額		達成率(%)	95	94	－
成果指標	補助金交付実績件数	件	目標値	10	10	4
			実績値	10	11	－
	算出根拠等　交付実績件数		達成率(%)	100	110	－
成果指標	補助金交付実績率	%	目標値	90	90	90
			実績値	95	94	－
	算出根拠等　交付実績件数／予算額		達成率(%)	106	104	－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－

補足事項

コスト面

事業費（人件費を除き繰越・補正を含む）	H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
歳出（千円）（A）	2,835	3,303	1,500
財源内訳　受益者負担（使用料・負担金等）			
財源内訳　その他特定財源（国・県支出金・起債等）			
財源内訳　一般財源	2,835	3,303	1,500
コスト指標　受益者1件当たり（円）（A／B）	1,077	1,258	572
コスト指標　受益者　一之宮地域住民（B）	2,633	2,625	2,623

3　分析・評価（Check）　※平成24年度の実績を評価

	評価項目	評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明（評価の理由等）
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	B	・事業自体に対する市民のニーズはある程度高くなっている。地域の自主的な地域振興活動の補助であり、市民ニーズにもマッチしている。 ・住民の自主的活動をより進めるには、更なるPRの必要性がある。
			B (1)	ある程度のニーズがある		
			C (0)	ニーズが低い		
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	B	・地域住民の創意と工夫による魅力ある地域づくりの推進と安全安心なまちづくりのための重要な事業である。
			B (1)	一部見直しが必要である		
			C (0)	市が実施する必要性が低い		
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	A	・住民自体が主体的・自主的に取り組む事業であり、活動実施によって地域の活性化やコミュニティの醸成が図られている。 ・補助金交付実績率も90%を上回っており、目標値を達成している。
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
			C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である		
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・補助金交付申請時に見積書を添付してもらうことで、適正な審査をしているため、執行方法等は効率的である。
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	・地域の個性あるまちづくりや住民によるコミュニティ醸成が図られているところから、市の政策、施策に効果をもたらしている。
			B (1)	ある程度効果があった		
			C (0)	あまり効果が見られなかった		
合計			8 ／ 10	→	100点換算	80　点

分析・評価で明らかになった課題（「A」評価にするために何が必要なのかを記入）	・住民の自主的な取組みをさらに進めるため、事業PRを強化しながら住民の主体性の向上を図る必要がある。
（参考）H24事業評価結果（二次評価）	・住民の主体的な地域振興事業活動という観点から、引き続き実施する。また、平成26年度を終期としている事業であることから、27年度以降の対応も検討する必要がある。

4　今後の方向性（Action）

課題等に対する今年度の対応状況	・町内会長会や班長会で地域振興事業補助金について説明するとともに、申請時における相談にも対応する。

次年度の実施方針（担当課評価）	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	・住民の主体的な地域振興事業活動という観点から、引き続き実施する。また、平成26年度を終期としている事業であることから、27年度以降の対応も検討する必要がある。				

二次評価（企画課・総務課・財政課評価）	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	・平成26年度を終期としている事業であり、執行内容を精査し、27年度以降の対応について検討する必要がある。				

平成25年度事業評価シート（地域振興特別予算）

事業名	20999	地域要望対応事業	担当課	一之宮支所　地域振興課	内線
	番枝				3411

予算			特別予算の位置付け			
会計	1	一般会計			A	合併前から実施されているイベント・行事
款	2	総務費			B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
項	1	総務管理費			C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
目	9	企画費		○	D	その他事業

根拠計画	高山市地域振興計画
市長公約	合併のメリットを活かし、それぞれの地域の特性を伸ばします 地域住民から信頼される支所運営を目指し、支所機能の強化をはかるために、権限と予算の再構築を行います。

1　事業の目的・概要（Plan）

目的	誰を（対象）	一之宮地域住民	対象者数	2,623　人
	どういう状態にしたいのか（意図）	・市有施設の修繕等、地域からの要望に即座に対応する。		
概要	事業の実施手法（手段）	・市道、水路など公共施設の軽微な修繕		

2　事業の推移・結果（Do）

成果面		
	H24の実績	・地域から9件の要望があり、市道の修繕工事等を行った。支所長権限で即座に対応できることから、地域の安全性が迅速に確保された。

	指標名	単位	目標・実績	H23	H24	H25
活動指標	要望対応件数	件	目標値	10	10	6
			実績値	9	10	－
	算出根拠等　要望対応件数		達成率(%)	90	100	－
成果指標	事業実績金額	%	目標値	90	90	90
			実績値	99	67	－
	算出根拠等　実績金額／予算額		達成率(%)	110	74	－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－

補足事項

コスト面	事業費（人件費を除き繰越・補正を含む）	H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
	歳出　（千円）　（A）	4,952	5,669	7,700
財源内訳	受益者負担（使用料・負担金等）			
	その他特定財源（国・県支出金・起債等）			
	一般財源	4,952	5,669	7,700
コスト指標	受益者1件当たり（円）　（A／B）	1,881	2,160	2,936
	受益者　一之宮地域住民(4月1日現在)　（B）	2,633	2,625	2,623

3　分析・評価（Check）　※平成24年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明（評価の理由等）
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	・市有施設に関する地域要望に支所長権限で即座に対応できることから、市民ニーズは高い。
		B (1)	ある程度のニーズがある		
		C (0)	ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	・市有施設（特に道路等）の修繕は軽微なものが少なく、住民では対応できないことから、市が実施する必要性が高い。
		B (1)	一部見直しが必要である		
		C (0)	市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	B	・地域の要望に即座に対応できるため、活動内容は有効性が高い。 ・成果目標を達成させるためには、引き続き地域へのPRが必要である。
		B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・市事業として設計管理のもとに実施しているので、コスト的に問題はない。
		B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	・地域の要望に即座に対応できるため、住民満足度も高く、市の政策、施策に効果をもたらしている。
		B (1)	ある程度効果があった		
		C (0)	あまり効果が見られなかった		
合計		9 ／ 10	→	100点換算	90　点

分析・評価で明らかになった課題（「A」評価にするために何が必要なのかを記入）	・地域要望対応事業のさらなる活用を進めるために、地域へのPRを強化していく必要がある。
（参考）H24事業評価結果（二次評価）	・地域の要望に即座に対応していくという観点から、引き続き実施する。また、平成26年度を終了としている事業であることから、平成27年度以降の対応も検討する必要がある。

4　今後の方向性（Action）

課題等に対する今年度の対応状況	・町内会長会や班長会で地域要望対応事業について説明するとともに、要望書提出時にもアドバイス等行っている。

次年度の実施方針（担当課評価）	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	・地域の要望に即座に対応していくという観点から、引き続き実施する。また、平成26年度を終了としている事業であることから、27年度以降の対応も検討する必要がある。				

二次評価（企画課・総務課・財政課評価）	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	・平成26年度を終了としている事業であり、執行内容を精査し、27年度以降の対応について検討する必要がある。				

平成25年度事業評価シート（地域振興特別予算）

事業名	番枝	土地借上げ料	担当課	一之宮支所	内線 3431
予算 会計	1	一般会計	特別予算の位置付け		A 合併前から実施されているイベント・行事
款				○	B 一般予算の上乗せとして実施されている事業
項					C 終期を定めて実施する事業・単年度事業
目					D その他事業
根拠計画					
市長公約					

1 事業の目的・概要（Plan）

目的	誰を（対象）	各施設利用者	対象者数	90,000 人
	どういう状態にしたいのか（意図）	・施設用地の借上げ		
概要	事業の実施手法（手段）			

2 事業の推移・結果（Do）

成果面

H24の実績	・臥龍公園用地（一部）借上げ ・モンデウス飛騨位山スノーパーク案内看板用地借上げ

	指標名	単位	目標・実績	H23	H24	H25
活動指標	用地の借上面積	㎡	目標値	516	478	478
			実績値	516	478	－
	算出根拠等		達成率(%)	100	100	－
成果指標	臥龍桜・桜まつり来場者数	人	目標値	40,000	40,000	40,000
			実績値	35,000	20,000	－
	算出根拠等		達成率(%)	88	50	－
成果指標	モンデウス飛騨位山スノーパーク来場者数	人	目標値	50,000	50,000	50,000
			実績値	45,072	43,136	－
	算出根拠等		達成率(%)	90	86	－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－

補足事項

コスト面

事業費（人件費を除き繰越・補正を含む）	H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
歳出 （千円） （A）	467	447	447
財源内訳 受益者負担（使用料・負担金等）			
その他特定財源（国・県支出金・起債等）			
一般財源	467	447	447
コスト指標 受益者1件当たり（円） （A／B）	6	7	5
受益者 各施設利用者数 （B）	80,072	63,136	90,000

3 分析・評価（Check） ※平成24年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明（評価の理由等）
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	B	・臥龍公園やスキー場案内看板の施設用地であるため、ある程度ニーズがある。
		B (1)	ある程度のニーズがある		
		C (0)	ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	B	・スキー場案内看板については老朽化しているため、一部見直しが必要である。
		B (1)	一部見直しが必要である		
		C (0)	市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	B	・臥龍公園など集客に必要な施設であるため、ある程度効果があがっている。
		B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・市の基準単価になるよう一部見直しを行い、コスト縮減がある程度図られている。
		B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	B	・観光振興などある程度効果があった。
		B (1)	ある程度効果があった		
		C (0)	あまり効果が見られなかった		
合計		5 ／ 10	→	100点換算	50 点

分析・評価で明らかになった課題（「A」評価にするために何が必要なのかを記入）	・市の基準に近づくよう単価交渉等を継続する必要がある。
（参考）H24事業評価結果（二次評価）	・市の基準に近づくよう単価交渉を継続する必要がある。

4 今後の方向性（Action）

課題等に対する今年度の対応状況	・市の基準単価に近づくよう単価交渉等を継続する。

次年度の実施方針（担当課評価）	維持・改善	拡大	○ 縮小	廃止の検討	H25完了予定
	・市の基準単価に近づくよう単価交渉等を継続する。				

二次評価（企画課・総務課・財政課評価）	維持・改善	拡大	○ 縮小	廃止の検討	H25完了予定
	（担当課評価に同じ）				